

自動ルビ振り for Word 操作マニュアル

第 5.1 版

2024 年 10 月 03 日

オーク・テクニカル・ソフト

改訂履歴

No.	改訂日	版数	改訂箇所	内容
1	2014/03/21	2.0		初版
2	2015/08/02	2.1	はじめに	試用期間とライセンスキー登録について追記
3	〃	〃	7	[ルビ書式設定]ダイアログの設定内容の変更
4	2015/11/13	2.2	旧 1.1 削除	図 1-3、図 1-4 のメニューに[ルビ変更]を追加
5	〃	〃	1.1 (旧 1.2)	図 1-1 [ルビ変更]アイコンを追加
6	〃	〃	4	ルビ変更を追加
7	〃	〃	6	ルビ変更を追加したため、見出し番号を 1 アップ
8	〃	〃	7	同上
9	〃	〃	8	同上
10	〃	〃	10	同上
11	2015/11/28	〃	3	2 通りの操作方法を追記
12	2016/09/03	3.0	旧 1.1 削除	図 1-3、図 1-4 メニューに[未習漢字検索]、[未習漢字ルビ]コマンドを追加
13	〃	〃	1.1 (旧 1.2)	図 1-1 [未習漢字検索]、[未習漢字ルビ]アイコンを追加
14	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[ルビ振りタイプ]リストボックスを追加
15	〃	〃	2	「エラー時にメッセージダイアログを表示しない」を追記
16	〃	〃	3	「未習漢字簡易ルビ振り」を追加
17	〃	〃	3.3	『ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」に設定されている場合に限りです。』を追加
18	〃	〃	3.4	「未習漢字簡易ルビ振り」新規追加
19	〃	〃	4	「未習漢字ルビ振り」新規追加
20	〃	〃	11	「エラーメッセージ」を追記
21	2018/02/26	3.1	はじめに	[ライセンスキー登録]ダイアログに[申込番号]テキストボックスを追加
22	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[振り仮名]リストボックスを追加
23	2019/10/01	3.2	1.2	[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記
24	〃	〃	2	項番⑤のルビ振りタイプに、注釈(※1)を追記
25	〃	〃	2	項番⑥の振り仮名に[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記
26	〃	〃	3	<u>ルビ振り範囲を選択する場合</u> 項番(2)に[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記 <u>ルビ振り範囲を選択しない場合</u> 項番(2)(4)に[片仮名ルビふり]コマンドに関する文言を追記
27	〃	〃	4	文言「なお未習漢字の検索は、文部科学省…」を追記
28	2020/04/24	3.3	1.1	図 1-1 リボンに[その他]グループを追加
29	〃	〃	1.1	図 1-3 コマンドの説明を追加

30	〃	〃	1.1	図 1-4 [バージョン情報]ダイアログの追加
31	〃	〃	11	共通操作 を追加
32	2020/06/15	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[既定に戻す]コマンドボタンを追加
33	2020/10/30	3.4	全体	リボン、ダイアログ、メッセージボックスについて、イメージを Word 2013 から Word 365 に変更
34	〃	〃	全体	[自動ルビ振り]タブ内のアイコンのイメージを一部変更。
35	〃	〃	1	[アドイン]タブからの操作を削除
36	〃	〃	1.1	(1) ⑤[ルビ色変更]コマンドを追加
37	〃	〃	1.3	ショートカットキーからの操作 を追加
38	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[ルビ文字サイズ補正]チェックボックスを追加
39	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログに[ルビ色変更後の文字の色]リストボックスを追加
40	2021/02/01	〃	1.1	(5) 変換辞書共有 (法人・団体ユーザー専用機能) を追加
41	〃	〃	9.1	(3) 文言「あらかじめ想定される分割箇所…」を追加
42	2021/05/11	3.5		自動ルビ振りプログラムの最適化を実施。 操作および機能については 3.4 版から変更なし
43	2021/06/27	4.0	2	⑧[高速ルビ振り]オプションの追加
44	2023/01/14	4.1	全体	メニュー、ダイアログ、メッセージボックスについて、イメージを最新バージョンに変更
45	〃	〃	2	⑨[高速ルビ振り時の変換辞書登録]オプションの追加
46	〃	〃	2	⑭[漢字 2 文字以上の単語を変換辞書登録]オプションを削除。変換辞書登録は漢字 2 文字以上の単語に限定する
47	〃	〃	2	⑭[構文解析拡張機能]オプションを追加
48	〃	〃	8	高速ルビ振り時の変換辞書登録機能の追加
49	〃	〃	9.1	図 9-1 正確な分割位置にスラッシュを挿入不可なため、子文字の分割位置の挿入は行わない。 (3) 同様に「子文字の分割位置挿入は行わない」と文言を変更した
50	2023/07/22	5.0	—	高速ルビ振り機能の削除。Windows の Excel 関数呼び出し時のオーバーヘッドが改善され、本アプリケーションでの高速化の必要性がなくなったため
51	〃	〃	2	図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログの変更。 ・[高速ルビ振り]チェックボックスの削除 ・[高速ルビ振り時の変換辞書登録]チェックボックスの削除 ・[変換辞書登録]チェックボックスの追加

52	2023/07/22	5.0	8	見出しを「高速ルビ振り時の変換辞書登録」から「ルビ振り時の変換辞書登録」に変更し、本文の内容も変更した
53	〃	〃	12.5	見出し「 Word に起因するエラー」を追加した
54	2024/10/03	5.1	8	「変換前の子文字の修正と変換辞書登録について」、 「変換辞書に登録できない単語のルビ振り時の誤変換対策について」を追記

目 次

はじめに	1
1. 操作方法	1
1.1. [自動ルビ振り]タブからの操作.....	1
1.2. ショートカットメニューからの操作	3
1.3. ショートカットキーからの操作	4
2. ユーザー設定.....	5
3. ルビ振り	9
3.1. グループルビ振り	14
3.2. モノルビ振り	14
3.3. 総ルビ振り	15
3.4. 未習漢字簡易ルビ振り	15
3.5. 初出ルビ振り	16
4. 未習漢字ルビ振り	19
4.1. 未習漢字検索	19
4.2. 未習漢字ルビ	19
5. ルビ変更	22
6. ルビ削除	24
7. 書式変更	26
8. ルビ振り時の変換辞書登録.....	27
9. 変換辞書登録・削除・訂正	31
9.1. 変換辞書への単語登録.....	31
9.2. 変換辞書から単語削除.....	33
9.3. 変換辞書登録済単語の訂正	34
10. 変換辞書の保守.....	35
10.1. 初期化.....	35
10.2. エクスポート	36
10.3. インポート	37
10.4. 最適化.....	39
11. 共通操作.....	40
11.1. 元に戻す	40
11.2. やり直し	40

12. エラーメッセージ 42

12.1. 文字数エラー 42

12.2. フィールドエラー 42

12.3. 表の列選択エラー 42

12.4. 図形選択エラー 43

12.5. WORD に起因するエラー 43

はじめに

本アプリケーションをインストール後、試用期間として1ヶ月間ご使用いただけます。ただし、一部の機能(未習漢字ルビ振り)は使用できません。試用期間が過ぎた場合、Vector(または作者)からライセンスキーを取得し、ライセンスキーの登録を行うことにより継続してご使用いただけます。

試用期間の間、Word 文書を開き最初のルビ振り(またはルビ削除)を行うと[ライセンスキー登録]ダイアログが表示されます。試用でご使用になる場合、[試用]ボタンをクリックしてください。試用期間の間、ルビ振りを行うことができます。ライセンスキーの登録を行う場合、Vector(または作者)から送られてきた申込日、申込番号、ライセンスキーを、該当するテキストボックスに入力し、[登録]ボタンをクリックしてください。ライセンスキーの登録が完了した場合、次回から[ライセンスキー登録]ダイアログは表示されません。本アプリケーションを再インストールする場合、再度ライセンスキーの登録を行う必要があります。申込日、申込番号、ライセンスキーは大切に保存してください。

ライセンスキー登録

申込日:

申込番号:

ライセンスキー:

試用 登録 キャンセル

yyyy/mm/dd の形式で、半角数字と半角スラッシュで入力します。
例) 「2018/02/26」 または 「2018/2/26」

半角英数字を大文字で 11 文字入力します。
例) 「CVRTHJR1234」

半角英数字および半角記号を大文字と小文字で入力します。
例) 「j#78Gw%kLf7B@h」

[ライセンスキー登録]ダイアログ

1. 操作方法

操作は Word 2007 から採用されたリボンインターフェース（以下、リボン）の[自動ルビ振り]タブ、ショートカットメニュー（右クリックしたとき表示されるメニュー）、ショートカットキー（キーの組み合わせ）から行います。ただしショートカットメニューおよびショートカットキーからの操作は、使用頻度の高い操作に限定します。

1.1. [自動ルビ振り]タブからの操作

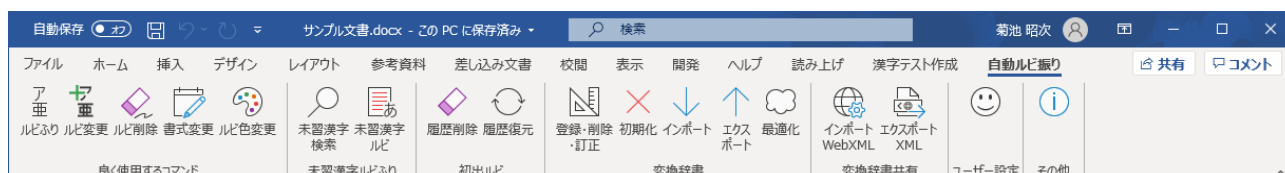


図 1-1 リボンの[自動ルビ振り]タブ (Word 365 の場合)

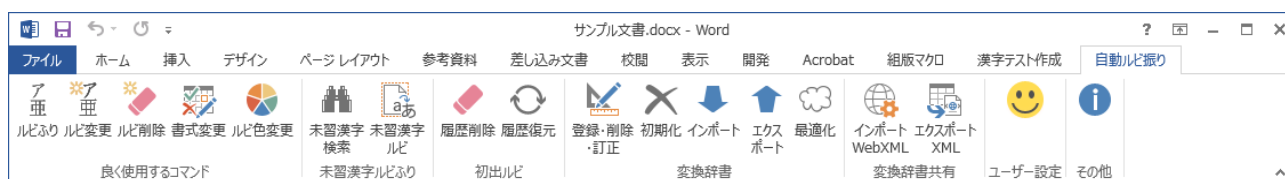


図 1-2 リボンの[自動ルビ振り]タブ (Word 2013 の場合)

[自動ルビ振り]タブには、操作するコマンドを7グループに分割し、アイコンとして配置しています。タブ内に配置されたアイコンをポイントすると、コマンドの説明が表示されます。（図 1-3）

タブ内のアイコンのイメージは、Word のバージョンにより異なりますが、処理内容はすべてのバージョンで変わりません。本マニュアルでは、Word 365 を使用した場合のアイコンイメージとなっています。

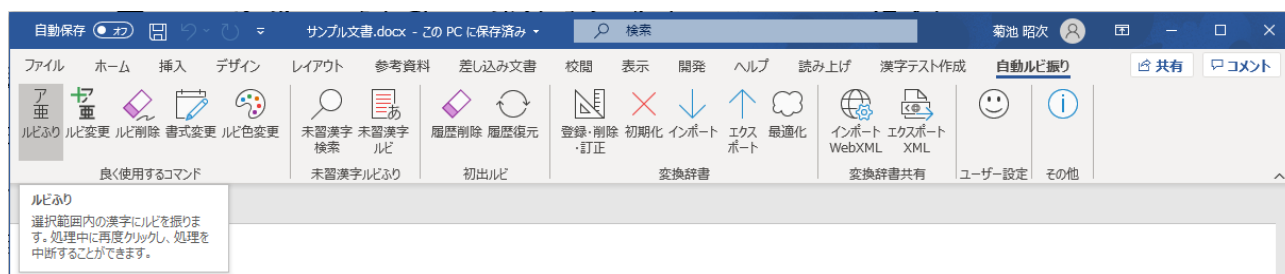


図 1-3 コマンドの説明

コマンドの処理内容をグループごとに説明します。

(1) 良く使用するコマンド

① [ルビ振り]コマンド

選択範囲内の漢字にルビを振ります。ルビ振り実行中に再度クリックし、処理を中断することができます。

② [ルビ変更]コマンド

選択範囲内のルビフィールド（Wordのルビ拡張書式設定箇所）のルビを変更します。（Word標準機能）

③ [ルビ削除]コマンド

選択範囲内のルビフィールドを解除します。

④ [書式変更]コマンド

選択範囲内のルビフィールドのルビの書式（書体、サイズ、オフセット、配置）を変更します。

⑤ [ルビ色変更]コマンド：選択範囲内のルビフィールド内のルビの文字色を変更します。

(2) 未習漢字ルビふり

① [未習漢字検索]コマンド

選択範囲内の未習漢字（設定学年で習っていない漢字）に黄色のマーキングを設定します。

② [未習漢字ルビ]コマンド

選択範囲内の黄色でマーキングされた漢字に対して手動でルビを振りします。

(3) 初出ルビ

① [履歴削除]コマンド

初出ルビ振りで使用する初出ルビ履歴を初期化します。初出ルビ振りについては「3.5初出ルビ振り」を参照してください。

② [履歴復元]コマンド

範囲選択内のルビフィールドから初出ルビ履歴を復元します。

(4) 変換辞書

① [登録・削除・訂正]コマンド

グループルビからモノルビに変換する辞書（以下、変換辞書）への登録、変換辞書からの削除、登録済みデータの訂正を行います。

② [初期化]コマンド

現在の変換辞書を削除し、新規に作成します。登録されているデータはすべて削除されます。

③ [インポート]コマンド

テキストファイル形式の変換データを取り込み、変換辞書に追加登録します。

※ 変換辞書に同一単語が存在する場合、その単語については更新されません。

④ [エクスポート]コマンド

変換辞書をテキストファイルとして、指定したフォルダ内に出力します。変換辞書のバックアップとしてご使用ください。

⑤ [最適化]コマンド

長期間、変換辞書を更新していると処理が重くなります。そのようなとき最適化を実行します。

※ 最適化前の変換辞書のデータは保持されます。

(5) 変換辞書共有（法人・団体ユーザー専用機能）

詳細は別冊「変換辞書共有機能ガイド」（法人・団体ユーザー向けドキュメント）を参照してください。

① [インポート WebXML]コマンド

インターネット上のユーザー専用 Web サーバーからバージョン管理された XML 形式の変換辞書をダウンロードし、変換データを変換辞書に追加登録します。なお初期設定は弊社の Web サーバー上の最新のサンプル変換辞書が設定されています。

② [エクスポート XML]コマンド

変換辞書を XML 形式のテキストファイルとして、指定したフォルダ内に出力します。

(6) ユーザー設定

① [ユーザー設定情報表示]コマンド

ユーザー固有の情報（ルビの書式、モノルビ機能のオン・オフ、初出ルビ機能のオン・オフ、変換辞書の保存フォルダなど）を設定します。詳細は「2. ユーザー設定」を参照してください。

※ 設定しなくても、インストール時に初期設定してあります。

(7) その他

① [バージョン情報表示] コマンド

アプリケーションのバージョンを確認したいとき、また開発者の連絡先を知りたいときにご使用ください。[バージョン情報表示] コマンドをクリック時の[バージョン情報] ダイアログの表示例を図 1-4 に示します。

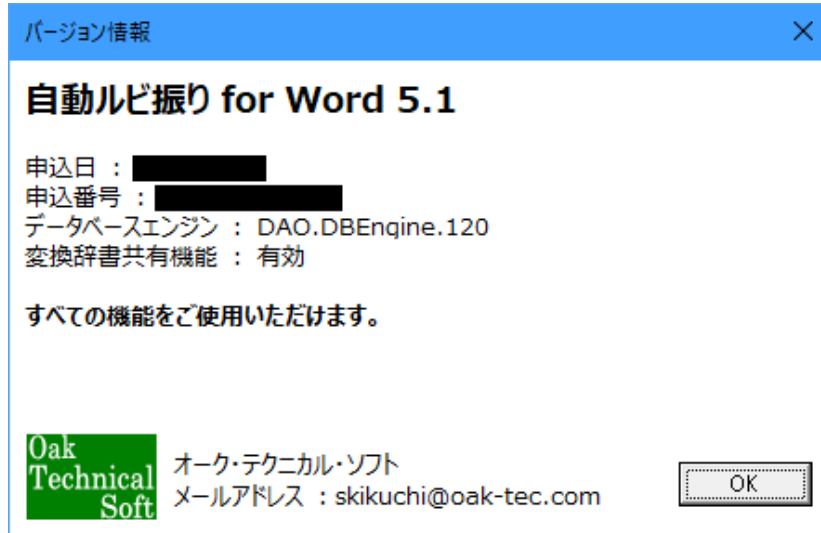


図 1-4 [バージョン情報] ダイアログ

1.2. ショートカットメニューからの操作

Word 文書内の文字列を選択した状態でマウスの右ボタンをクリックすると、ショートカットメニューに[ルビふり]コマンドと[片仮名ルビふり]コマンド、または[ルビ削除]コマンドが表示されます。

選択範囲内にルビフィールドが存在しない場合

[ルビふり]コマンドと[片仮名ルビふり]コマンドがショートカットメニュー内に表示されます。

(図 1-5)

※ [片仮名ルビふり]コマンドは[自動ルビ振り]タブには存在しません。ショートカットメニューからの操作に限定します。

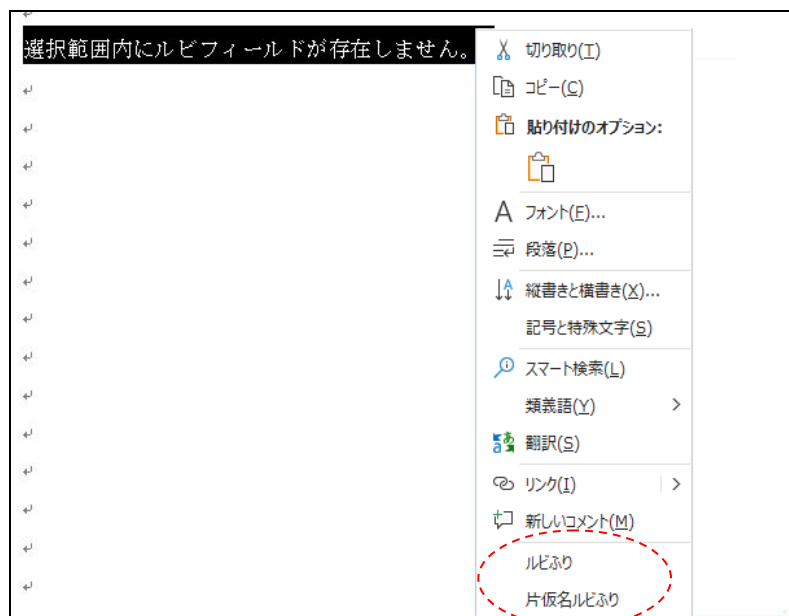


図 1-5 ルビフィールドが存在しない場合のショートカットメニュー

選択範囲内にルビフィールドが存在する場合

[ルビ削除]コマンドがショートカットメニュー内に表示されます。(図 1-6)

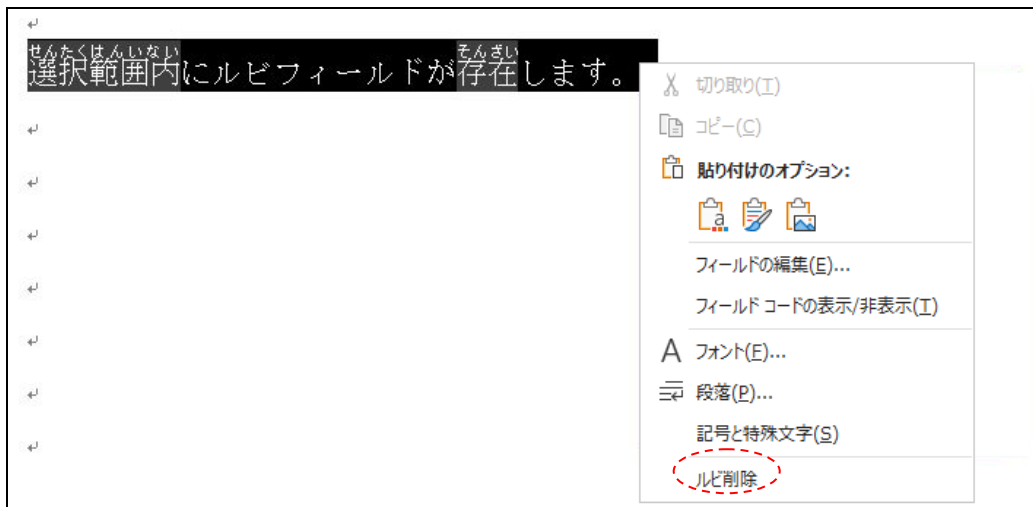


図 1-6 ルビフィールドが存在する場合のショートカットメニュー

1.3. ショートカットキーからの操作

特に使用頻度の高い[ルビふり]コマンドと[ルビ削除]コマンドはショートカットキーを使用できます。

[ルビふり]コマンド : Ctrl + Shift + R

※実行中のルビ振り処理を中断するため再度[ルビふり]コマンドを操作する場合、ショートカットキーを使用せず[自動ルビ振り]タブ内の[ルビふり]コマンドをクリックしてください。システムがショートカットキーを認識しないときがあります。

[ルビ削除]コマンド : Ctrl + Shift + X

2. ユーザー設定

自動ルビ振りユーザー固有の設定は、[ユーザー設定]ダイアログで行います。本章では、[ユーザー設定]ダイアログの設定項目について説明します。インストール後、一度も更新していない場合、図 2-1 のように初期状態で表示されます。

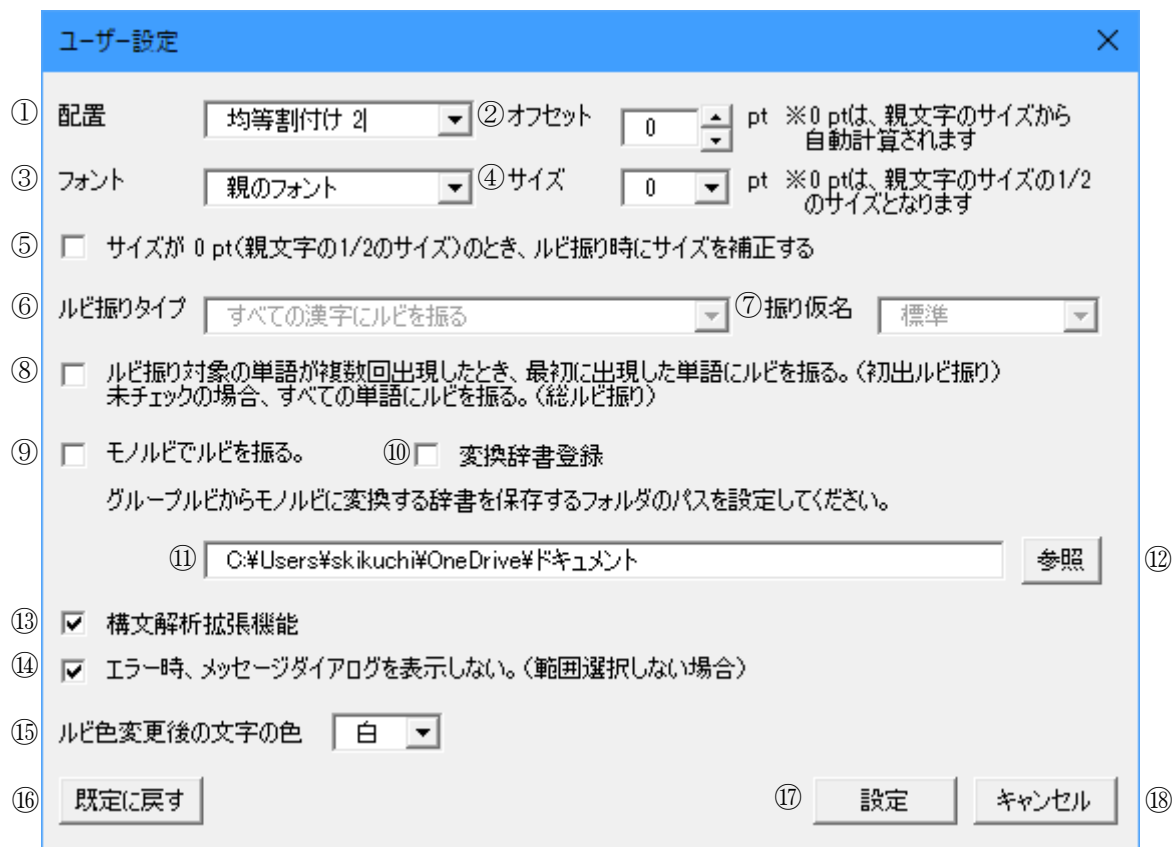


図 2-1 [ユーザー設定]ダイアログ

① [配置]：

ルビの配置を「中央揃え」、「均等割付け 1」、「均等割付け 2」、「左揃え」、「右揃え」から選択します。内容は Word の[ルビ]ダイアログの[配置]に準じます(図 2-2)。初期状態は「均等割付け 2」に設定されています。

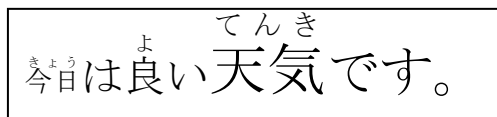


図 2-2 配置の種類

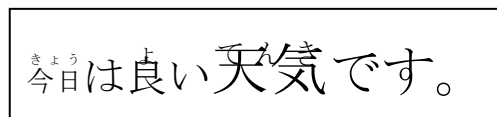
② [オフセット]：

本文とルビの間隔を 0 以上の整数値（単位ポイント）で設定します。初期状態は 0 に設定されています。

オフセット 0 は本文とルビの間隔が 0 ポイントであるという意味の他に重要な意味があります。本文の文字サイズがすべて同一でない場合、オフセット 0 であればルビ振り対象文字の文字サイズから計算して適正な位置にルビは配置されます。オフセットが 0 以外の場合、本文の書式スタイルの文字サイズから計算した位置にルビは配置されます。（図 2-3）



オフセット 0 ポイントの場合



オフセット 0 ポイント以外の場合

図 2-3 オフセットの自動計算

③ [フォント]：

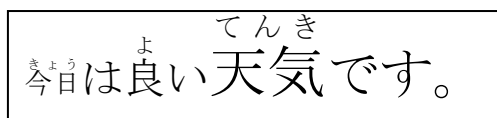
ルビの書体を選択します。初期状態「親のフォント」は、本文の書体をルビにも適用することを意味します。

④ [サイズ]：

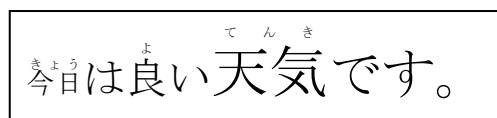
ルビの文字サイズを選択します。

初期状態は 0 で、ルビ振り対象文字の文字サイズの 1/2 になるように自動計算されます。

ルビ振り対象文字の文字サイズに依存せず、常に同じサイズのルビを振りたいときは 0 以外のサイズを選択してください。（図 2-4）



サイズが 0 ポイントの場合



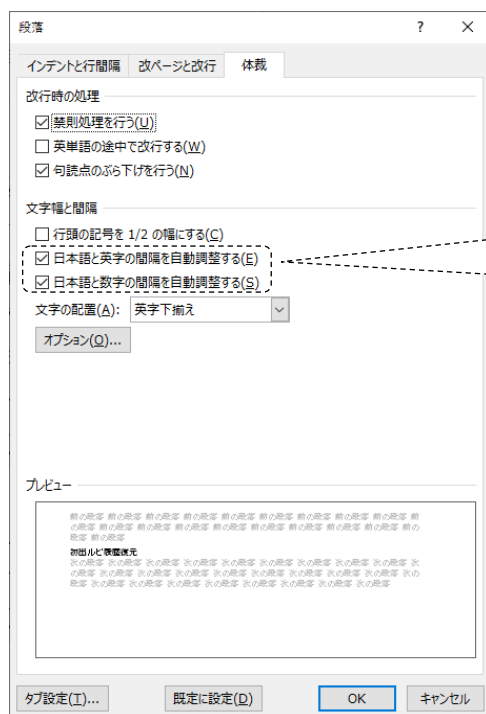
サイズが 0 ポイント以外の場合

図 2-4 サイズの自動計算

⑤ [ルビ文字サイズ補正]：

ルビ文字サイズ補正機能（ルビを振る前のレイアウトを可能な限り維持するため、動的にルビの文字サイズを決定する）を有効にする場合にチェックします。ただし、④[サイズ]が 0 ポイントであることが前提で、0 ポイント以外の場合はチェックされていても機能しません。

また、Word 文書内のルビ振り対象の段落について、複数の属性の設定値によってはルビ振り前後でレイアウトが異なる場合があります。（図 2-5）



【日本語と英字の間隔を自動調整する】、
【日本語と数字の間隔を自動調整する】の両チェックボックスがチェックされていると、ルビ振り前後でレイアウトが異なる場合があります。

図 2-5 [段落]ダイアログとルビ振り前後のレイアウトに関する属性

初期状態はチェックされていない状態で、本機能は無効となりルビの文字サイズはルビ振り対象文字の文字サイズの 1/2 となります。（図 2-6）

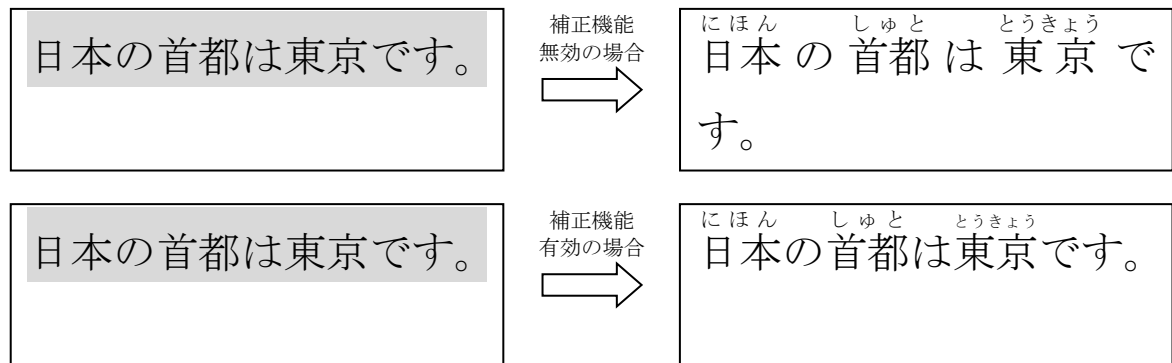


図 2-6 ルビ文字サイズ補正機能の例

⑥ [ルビ振りタイプ]：

ルビ振りのタイプを次の 8 種類の中から選択します。

「すべての漢字にルビを振る」 ※初期状態として設定されています。

「小学 1 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 2 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 3 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 4 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 5 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「小学 6 年で習わない漢字にルビを振る」 ※1

「常用漢字以外の漢字にルビを振る」

※1. 文部科学省によって 2020 年に施行された小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に従って未習漢字にルビを振ります。

⑦ [振り仮名]：

[ルビふり]コマンドをクリックしたときに有効な設定値で、振り仮名（以下、ルビ）の振り方を次の 3 種類の中から選択します。

ショートカットメニューの[片仮名ルビふり]コマンドをクリックしたとき、本設定値の内容に関係なくカタカナでルビを振ります。

「標準」（初期状態として設定されています。）：

グループルビの場合、ルビをひらがなで振ります。

モノルビの場合、変換辞書の変換後のルビをひらがな（またはカタカナ）に変換することなくそのまま振ります。ただし、変換辞書に登録されていない単語はひらがなで振ります。

グループルビとモノルビについては、⑨[モノルビ] を参照してください。

「ひらがな」：グループルビ、モノルビを問わず、ルビをひらがなに変換して振ります。

「カタカナ」：グループルビ、モノルビを問わず、ルビをカタカナに変換して振ります。

⑧ [初出ルビ振り]：

初出ルビ機能（同一単語が複数回出現する場合、最初に出現した単語にルビを振る）を有効にする場合にチェックします。

初期状態はチェックされていない状態で、すべての単語にルビが振られます。（総ルビ）

⑨ [モノルビ] :

モノルビでルビを振る場合にチェックします。初期状態はチェックされていない状態で、グループルビでルビは振られます。

グループルビとモノルビについて

グループルビは単語に対してルビを配置します。モノルビは単語を構成する漢字に対してルビを振ります。(図 2-7)

グループルビの場合、漢字の読み仮名がその漢字に対して振ることはできませんが、変換辞書を使用しないため処理は軽くなります。

モノルビの場合、漢字の読み仮名はその漢字に対して振ることができますが、変換辞書を使用してグループルビからモノルビに変換するため処理は多少重くなります。

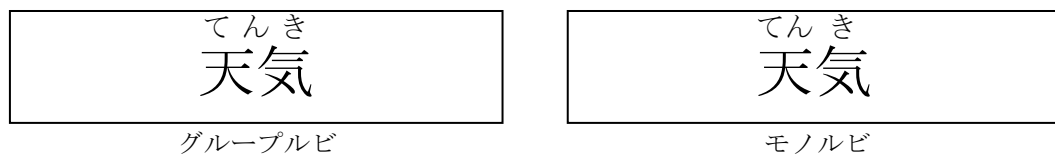


図 2-7 グループルビとモノルビ

⑩ [変換辞書登録] :

ルビ振り時、変換辞書に未登録な単語を検出したとき、ルビ振り実行中に変換辞書登録を行うことが可能です。

詳細は「8. ルビ振り時の変換辞書登録」で説明します。

初期状態はチェックされていない状態で、ルビ振り実行中の変換辞書登録は行いません。

⑪ [変換辞書保存フォルダ] :

変換辞書を保存するフォルダのフルパスを設定します。初期状態はユーザーのドキュメントフォルダが設定されます。

⑫ [フォルダ選択ダイアログ表示] :

クリックすると、変換辞書保存フォルダを設定するためのフォルダ選択ダイアログが表示されます。

⑬ [構文解析拡張機能] :

Word の単語検出は必ずしも正確とは限りません。たとえば「平昌」(ぴょんちゃん) という漢字 2 文字から構成される単語は、「平」と「昌」の 2 つの単語から構成されるように検出されます (Word 365 の場合)。本アプリケーションはこのような単語の検出を文脈を解析して補正する機能です。ただし本機能も必ず正確に補正できるとは限りません。

初期状態はチェックされた状態で、本機能が有効となります。

⑭ [エラー時にメッセージダイアログを表示しない] :

チェックした場合、ルビ振り実行中にエラーが発生してもメッセージダイアログを表示せず、ルビ振り終了後にメッセージダイアログを表示します。チェックしない場合、ルビ振り実行中にエラーが発生したとき、ルビ振りを一旦停止してメッセージダイアログを表示します。

初期状態はチェックされた状態です。

⑮ [ルビ色変更後の文字の色] :

[ルビ色変更] コマンド実行後のルビの文字の色を「白」、「赤」、「青」、「緑」、「黄」から選択します。初期状態は、ルビが非表示になることを考慮し「白」に選択されています。Word 文書の読み上げアドイン「WordTalker」などルビ優先の読み上げソフトを使用して正しく読み上げたいがルビは表示させたくない。このような場面などでご使用ください。

⑯ [既定に戻す] : すべての設定項目が既定の値 (インストール時の内容) に設定されます。

⑰ [設定] : クリックすると設定が有効になり、ダイアログは閉じます。

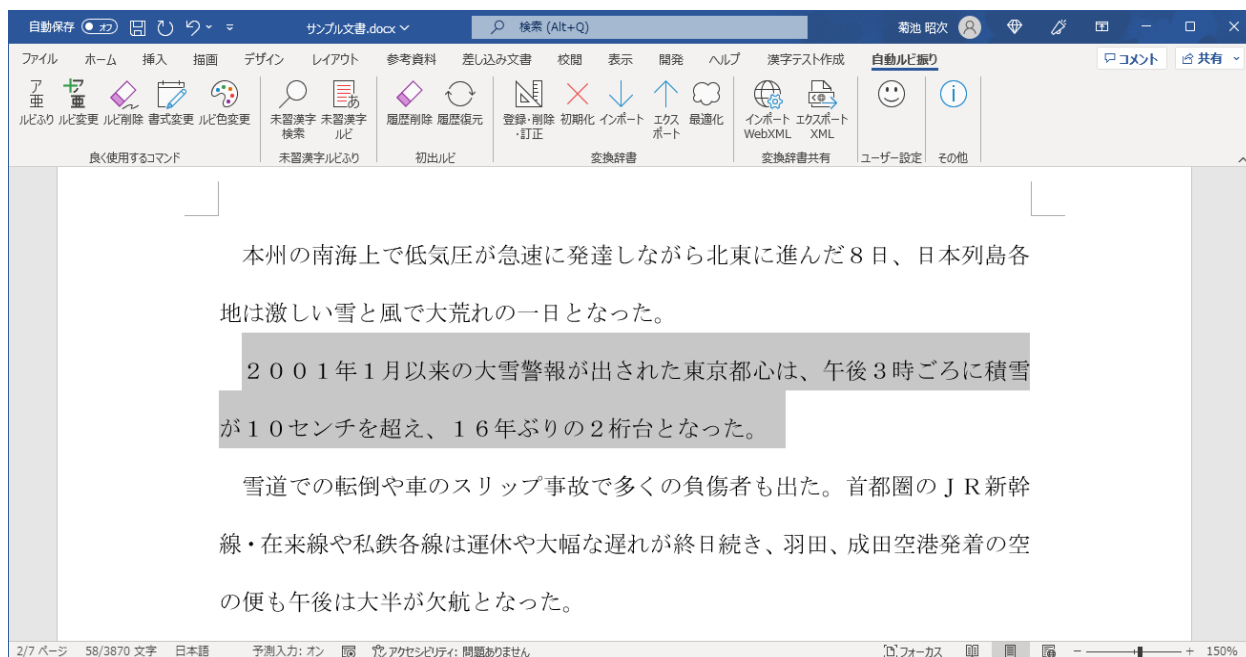
⑱ [キャンセル] : クリックすると設定が無効になり、ダイアログは閉じます。

3.ルビ振り

ルビ振りの操作は、①ルビ振り範囲を選択する場合、②ルビ振り範囲を選択しない場合、の2通りの操作方法があります。それぞれの操作について説明します。後に説明する「グループルビ振り」「モノルビ振り」「総ルビ振り」「未習漢字簡易ルビ振り」「初出ルビ振り」についても、操作はすべて同じです。[ユーザー設定]ダイアログの設定内容で動作が変わるだけです。

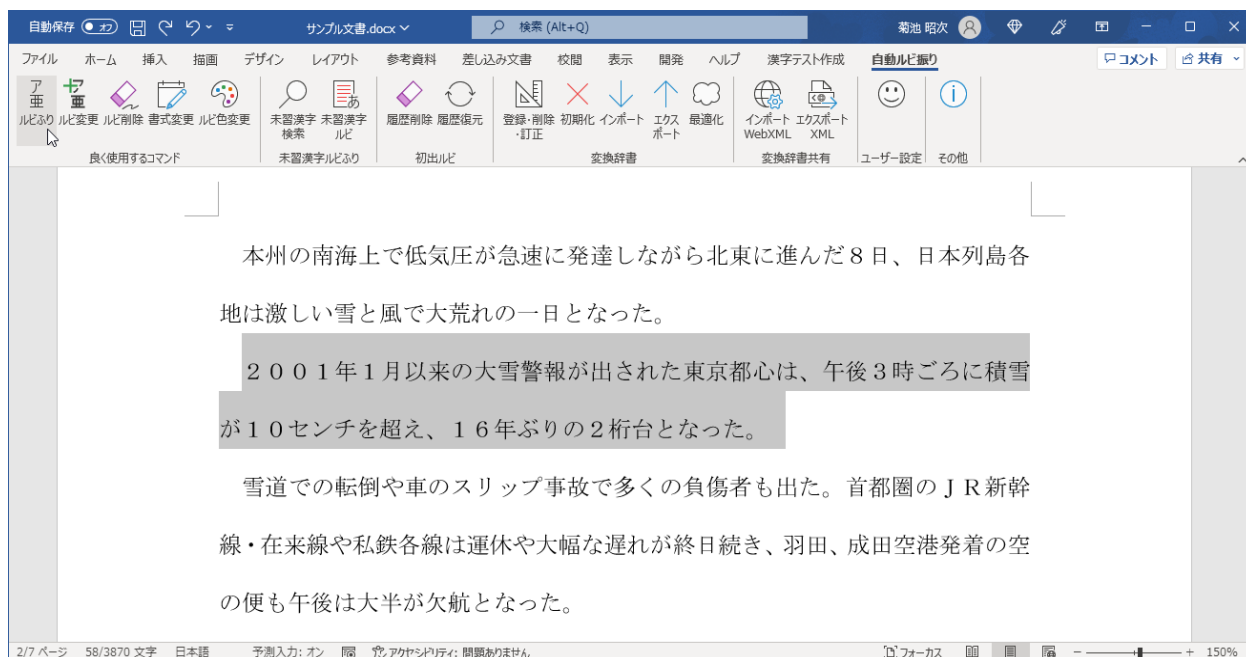
ルビ振り範囲を選択する場合

(1) ルビ振り範囲を選択します。

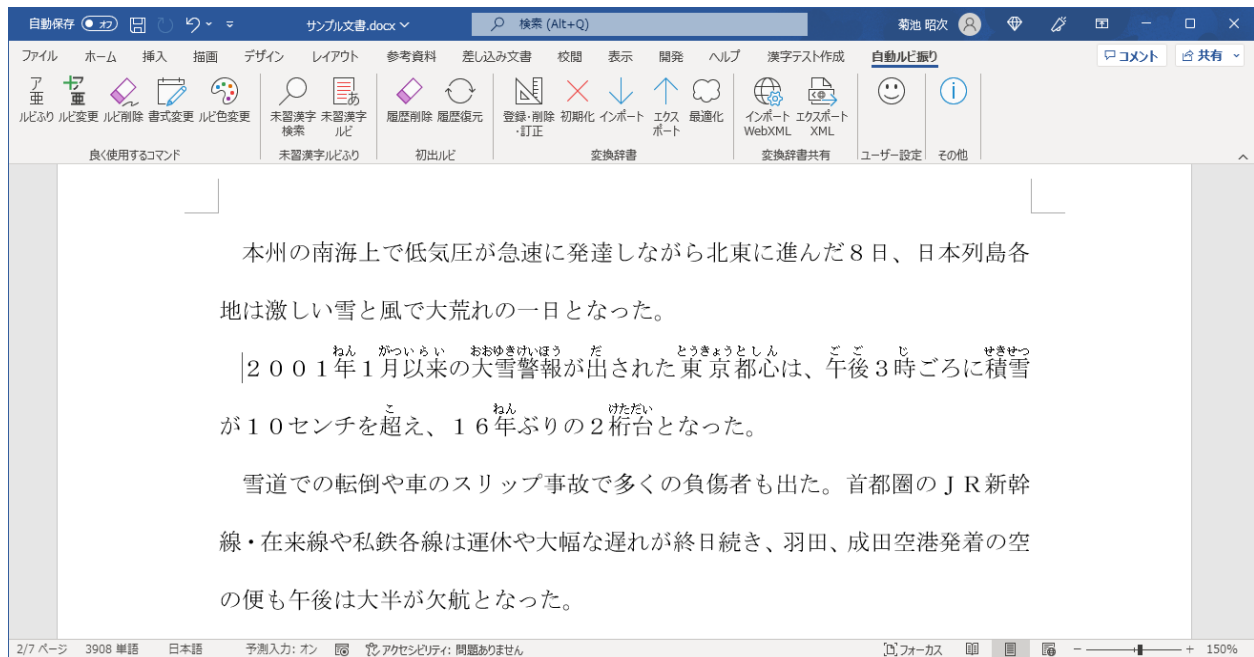


(2) [ルビ振り]コマンドをクリックします。

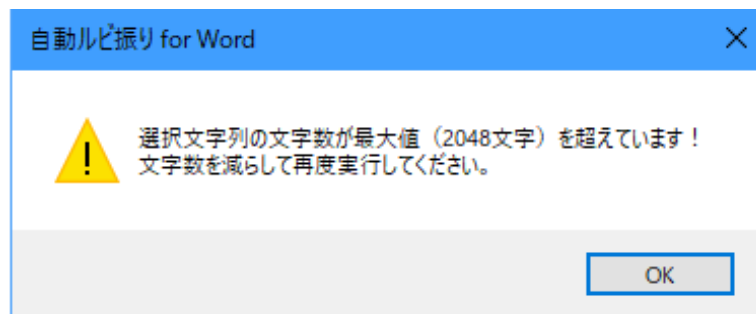
カタカナでルビを振る場合、ショートカットメニューの[片仮名ルビ振り]コマンドをクリックしてください。



=> 選択範囲内の単語にルビが振られます。



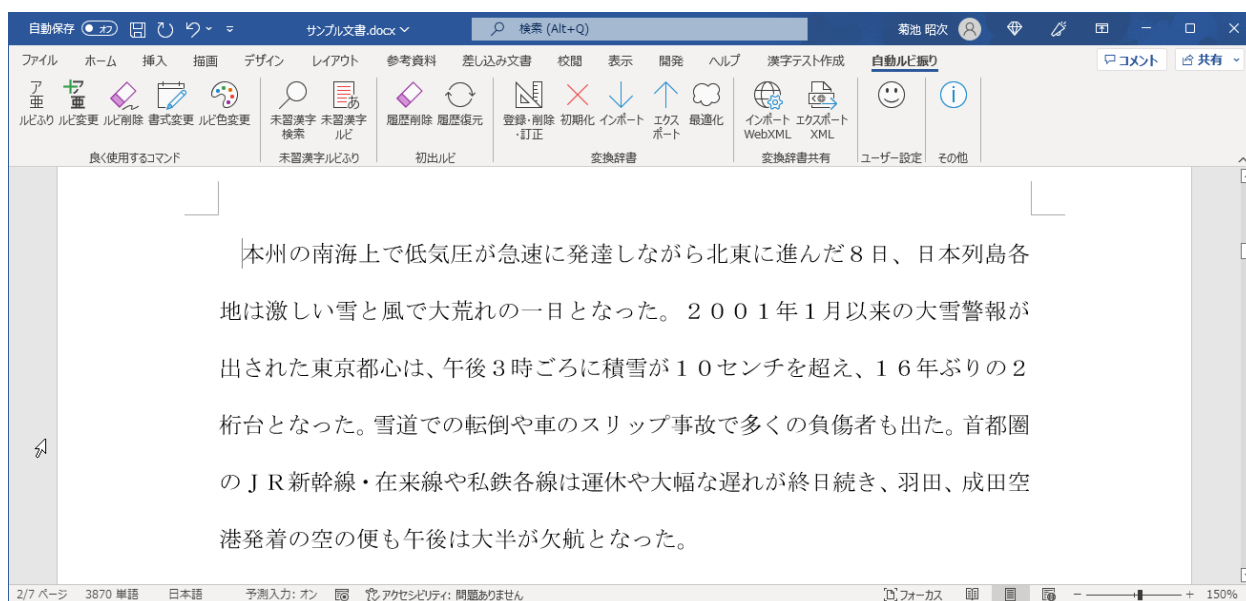
選択文字数は最大 2048 文字となっています。制限を超えた場合、エラーメッセージが表示されるので、選択範囲を制限内にして再度実行してください。



ルビ振り範囲を選択しない場合

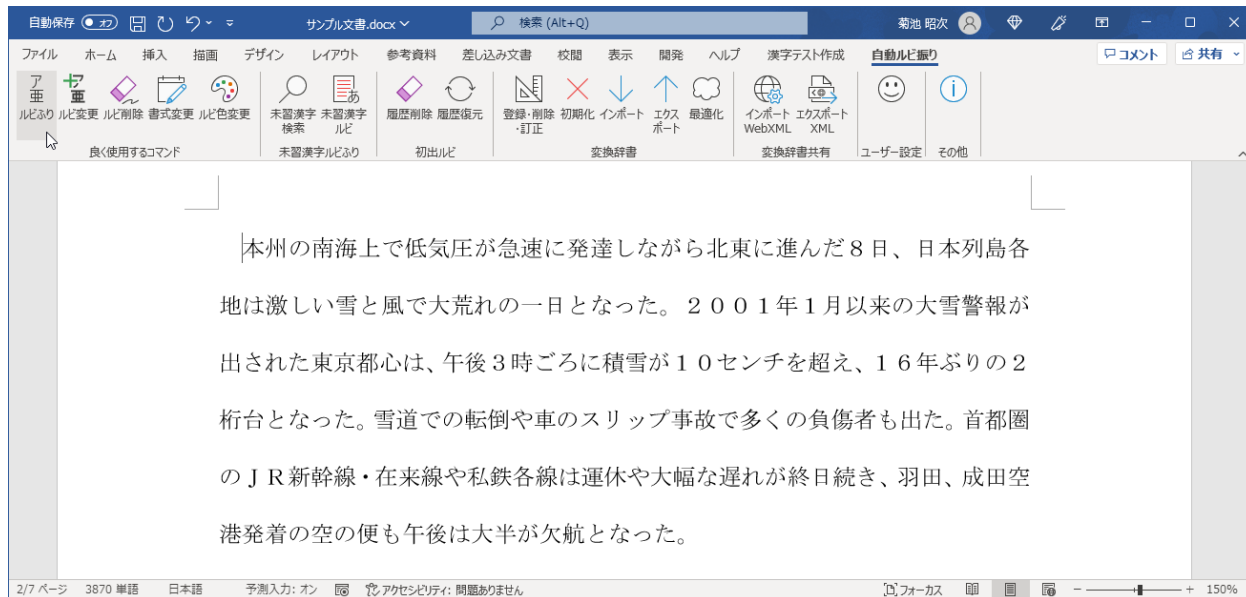
- (1) ルビを振りたい段落にカーソルを指定します。

カーソルは、段落の範囲内であればどの場所を指定していても大丈夫です。例では1番目の段落の先頭を指定しています。

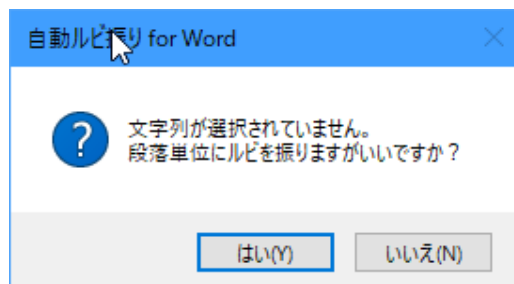


- (2) [ルビふり]コマンドをクリックします。

カタカナでルビを振る場合、ショートカットメニューの[片仮名ルビふり]コマンドをクリックしてください。



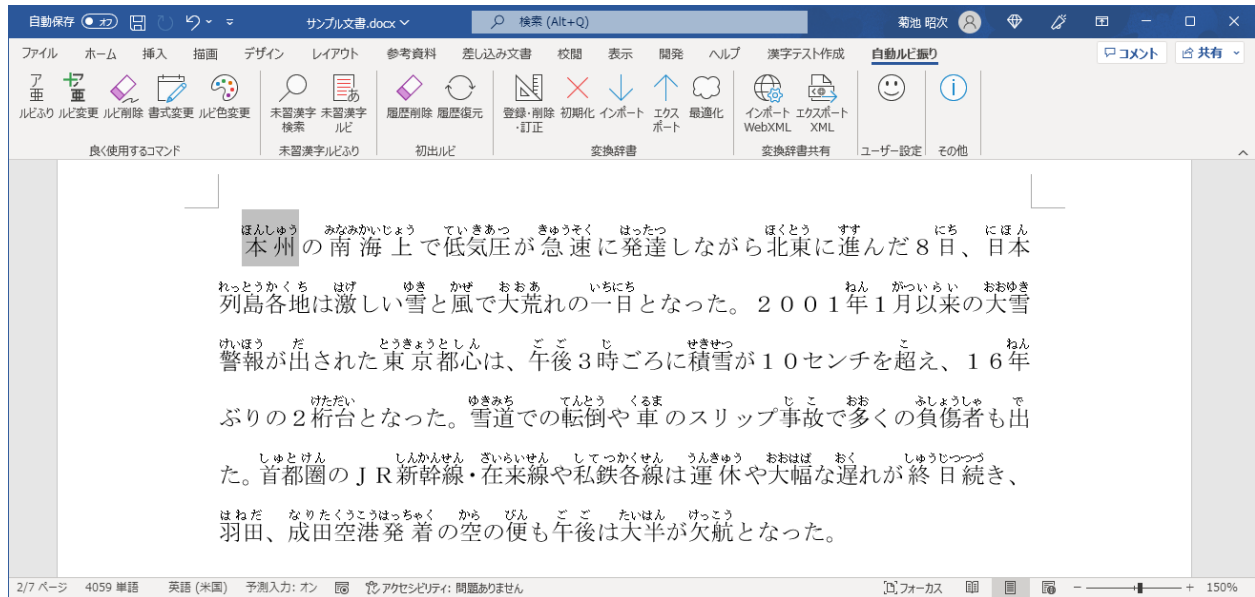
⇒ 確認メッセージが表示されます。



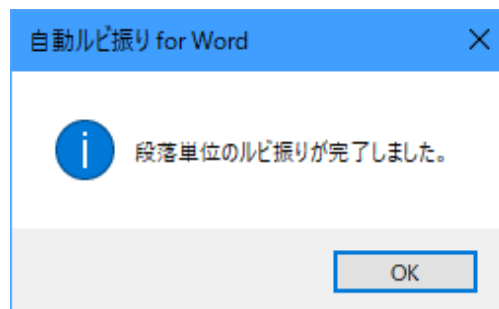
(3) [はい]ボタンをクリックします。

[いいえ]ボタンをクリックした場合、処理は中断されます。

⇒ 指定した段落以降すべての段落が選択されたと見なし、段落単位にルビが振られます。



⇒ 処理が完了した場合、終了メッセージが表示されます。



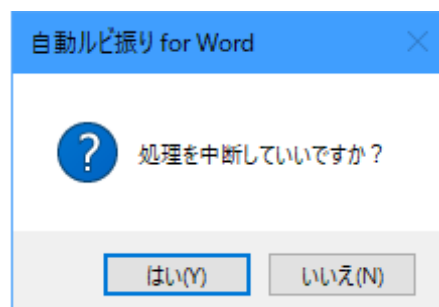
段落内の文字数は最大 2048 文字となっています。制限を超えた場合、エラーメッセージ（前述）が表示され、エラーとなった段落のルビ振りはスキップされます。その他のエラーについても、エラーとなった段落のルビ振りはスキップされます。

長い文章に対してルビ振りを実行した場合、処理が長時間に及ぶことも考えられます。途中で処理を中断したいときの操作を説明します。

(4) [ルビふり]コマンド実行中に、再度[ルビふり]コマンドをクリックします。

[片仮名ルビふり]コマンド実行中の場合も[ルビふり]コマンドをクリックしてください。

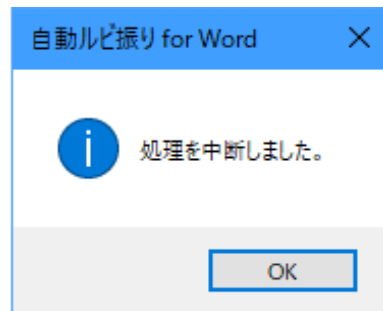
⇒ 確認メッセージが表示されます。



(5) [はい]ボタンをクリックします。

[いいえ]ボタンをクリックした場合、そのまま処理は続行されます。

⇒ 処理中断メッセージが表示され、処理は中断されます。



3.1. グループルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[モノルビ]チェックボックスがチェックされていない状態でルビ振りを実行すると、グループルビでルビが振られます。

3.2. モノルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[モノルビ] チェックボックスがチェックされた状態でルビ振りを実行すると、モノルビでルビが振られます。

モノルビでルビを振るためには、単語単位に変換辞書へ登録しておく必要があります。ルビ振り対象の単語が未登録の場合、グループルビでルビが振られます。変換辞書への登録方法は「9. 変換辞書登録・削除・訂正」を参照してください。

3.3. 総ルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[初出ルビ振り]チェックボックスがチェックされていない状態でルビ振りを実行すると、選択範囲のすべての単語にルビが振られます。(図 3-1)

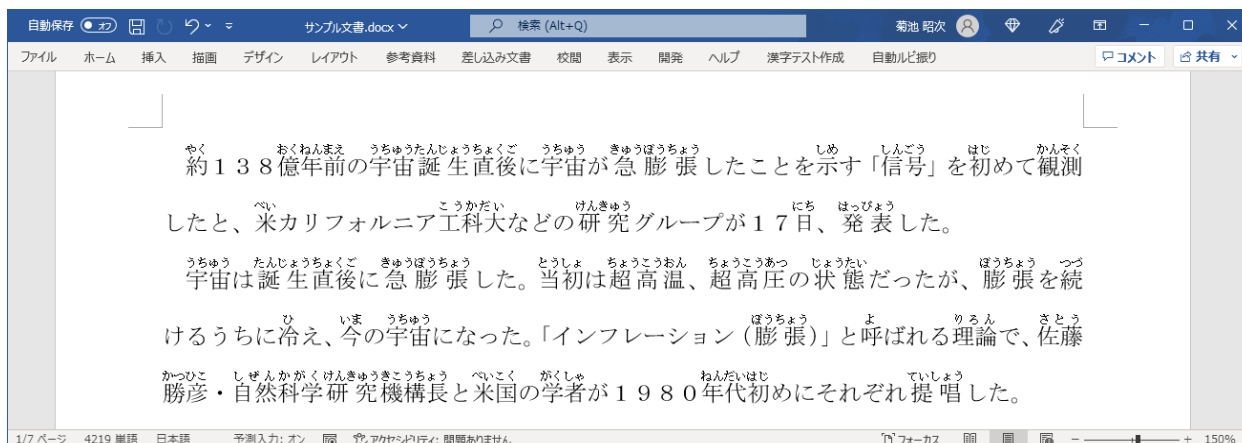


図 3-1 総ルビ振り

ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」に設定されている場合に限りです。

3.4. 未習漢字簡易ルビ振り

ルビ振りタイプが「すべての漢字にルビを振る」以外のタイプに設定されている場合、そのタイプに該当する未習漢字にルビが振られます。ただし、2文字以上の漢字で構成される単語で未習漢字と既習漢字が混在する場合、既習漢字にもルビが振られます。確実に未習漢字にだけルビを振りたいときは、「4. 未習漢字ルビ振り」を使用してください。 図 3-2 はルビ振りタイプが「小学5年で習わない漢字にルビを振る」に設定されているときのルビ振り結果です。単語「急膨張」の3文字で「膨」だけが未習漢字ですが、単語3文字に対してルビが振られています。

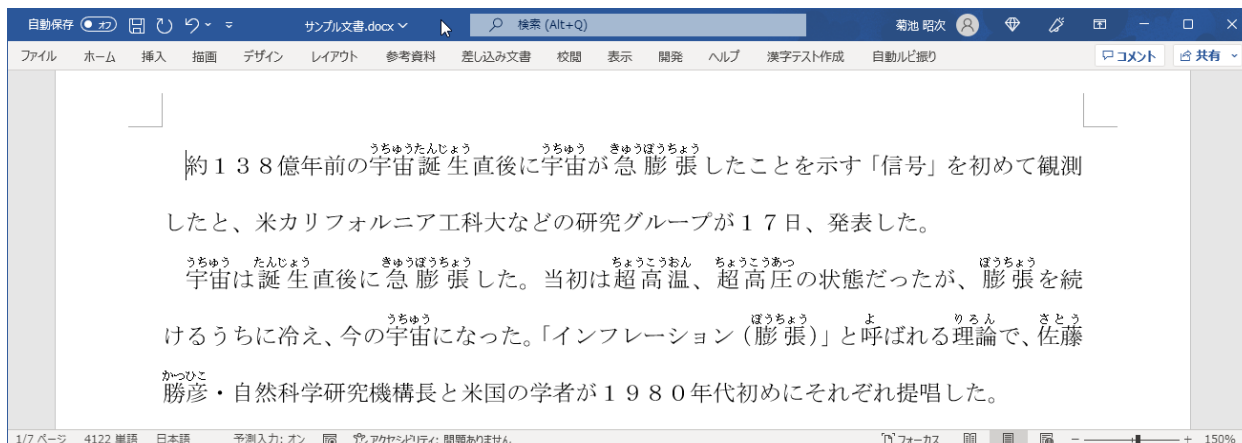


図 3-2 未習漢字簡易振り

3.5. 初出ルビ振り

[ユーザー設定]ダイアログの[初出ルビ振り]チェックボックスがチェックされた状態でルビ振りを実行すると、選択範囲内に同一単語が複数回出現する場合、最初に出現した単語にルビが振られます。
(図 3-3)

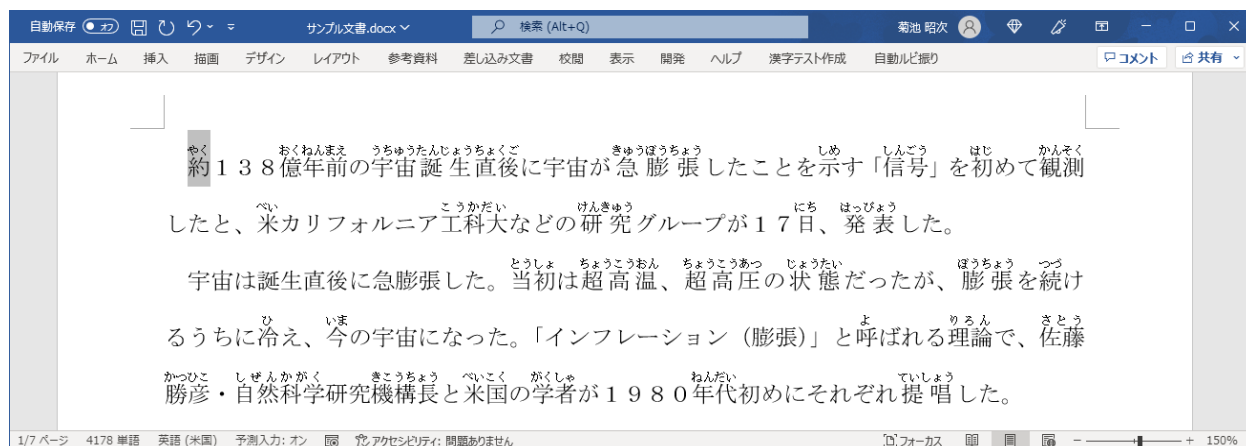


図 3-3 初出ルビ振り

初出ルビ振りの補助機能である、初出ルビ履歴削除、初出ルビ履歴復元、について説明します。また、注意事項として、モノルビ振りと初出ルビ振りの併用についても説明します。

初出ルビ履歴削除

図 3-3 の例で、4 行目以降の単語「宇宙」「誕生直後」「急膨張」などはすでに出現しているのでルビは振られません。もし 4 行目の位置で改頁になった場合、これらの単語に改めてルビを振りたいという場面があるでしょう。このようなとき[初出ルビ履歴削除]コマンドをクリックし、すでに登録されている初出ルビ履歴をすべて削除します。初出ルビ履歴を削除した後、4 行目以降を選択してルビを振ります。その結果は 図 3-4 のようになります。単語「宇宙」「誕生直後」「急膨張」にルビが振られました。

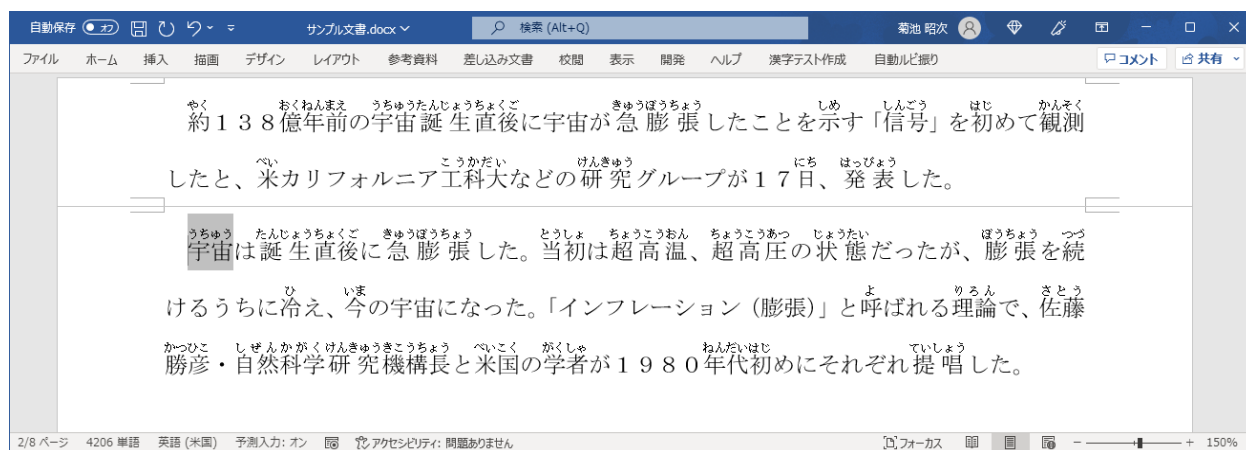


図 3-4 履歴データ削除後の初出ルビ振り

初出ルビ履歴復元

図 3-3 の例で、2 行目まで初出ルビ振りし、一旦 Word 文書を保存し作業を終了したとします。改めて Word アプリケーションを起動して Word 文書を開き、3 行目以降に対して初出ルビ振りします。その結果は 図 3-5 のように 3 行目以降、前出の単語にルビが振られてしまいました。初出ルビ振り履歴の保存期間は Word アプリケーションが動作している間で、再起動すると削除されてしまいます。

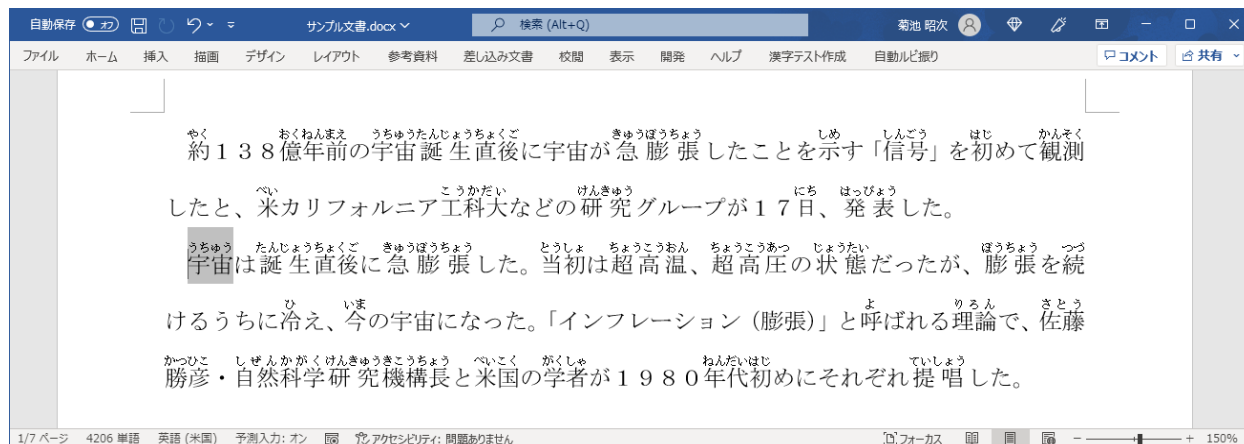


図 3-5 作業再開後の初出ルビ振り

このようなとき[初出ルビ履歴復元]コマンドを使用します。図 3-3 の例で、1 行目から 2 行目を範囲選択して[初出ルビ履歴復元]コマンドをクリックします。範囲選択内のすべてのルビフィールドは、初出ルビ履歴に追加登録されます。この作業を行うと、3 行目以降にルビ振りしても前出の単語にルビは振られません。

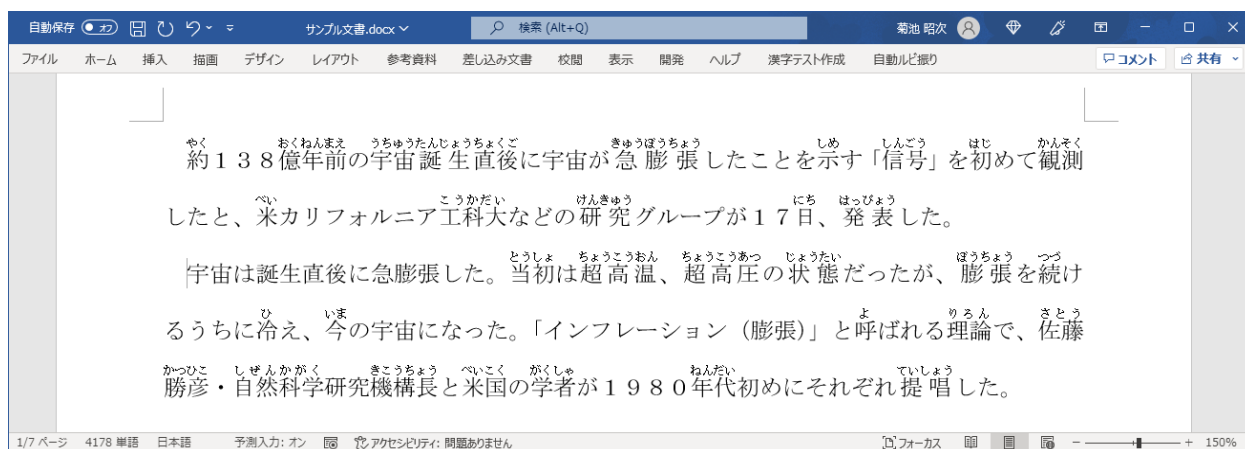


図 3-6 初出ルビ履歴復元後の初出ルビ振り

モノルビ振りと初出ルビ振りの併用について

モノルビ振りと初出ルビ振りを併用した場合、使用者の意図するルビ振りが行われない場合があります。グループルビ振りと初出ルビ振りとの併用を推奨します。

モノルビでルビを振った場合、単語を構成する漢字単位にルビを振るため、初出ルビ履歴に単語ではなく漢字が登録されます。同一単語の出現を判別するための初出ルビ履歴は、同一漢字の出現を判別するためのものになってしまいます。図 3-7 の例で、前出の漢字「本州」の「本」にルビが振られたため、「日本」の「本」にはルビが振られません。同様に「都心」の「都」にルビが振られているため、「首都圏」の「都」にルビが振られません。

ほんしゅう みなみかいじょう ていき あつ きゅうそく はったつ ほくとう すず か に れっとうかく
本州の南海上で低気圧が急速に発達しながら北東に進んだ8日、日本列島各
ち はげ ゆき かぜ おお あ いちにち ねん がつ いらい おおゆきけいほう だ
地は激しい雪と風で大荒れの日となった。2001年1月以来の大雪警報が出さ
とうきょうとしん ご ご じ せきせつ こ けただい
れた東京都心は、午後3時ごろに積雪が10センチを超え、16年ぶりの2桁台と
ゆきみち てんとう くるま じ こ おお ふしゅうしゃ で しゅ けん
なった。雪道での転倒や車のスリップ事故で多くの負傷者も出た。首都圏のJR
しんかんせん ざいらいせん してつかくせん うんきゅう おおはば おく しゅうじつづ はねだ なり た くのうはっちやく
新幹線・在来線や私鉄各線は運休や大幅な遅れが終日続き、羽田、成田空港発着
の空の便も午後は大半が欠航となった。

図 3-7 モノルビ振りと初出ルビ振りの併用例

グループルビでのルビ振りと初出ルビ振りの併用の例が図 3-8 です。単語単位に初出ルビ履歴に登録されるため、「日本」の「本」、「首都圏」の「都」について、単語が前出していないのでルビが振られています。この例では「午後」のみ前出しているのでルビが振られていません。

ほんしゅう みなみかいじょう ていき あつ きゅうそく はったつ ほくとう すず か にほん れっとう
本州の南海上で低気圧が急速に発達しながら北東に進んだ8日、日本列島
かくち はげ ゆき かぜ おお あ ついたち ねん がつ いらい おおゆきけいほう だ
各地は激しい雪と風で大荒れの日となった。2001年1月以来の大雪警報が出
とうきょうとしん ご ご じ せきせつ こ けただい
された東京都心は、午後3時ごろに積雪が10センチを超え、16年ぶりの2桁台
ゆきみち てんとう くるま じ こ おお ふしゅうしゃ で しゅとけん
となった。雪道での転倒や車のスリップ事故で多くの負傷者も出た。首都圏のJ
しんかんせん ざいらいせん してつかくせん うんきゅう おおはば おく しゅうじつづ はねだ なり た くのう
R新幹線・在来線や私鉄各線は運休や大幅な遅れが終日続き、羽田、成田空港
はっちやく そら びん たいはん けっこう
発着の空の便も午後は大半が欠航となった。

図 3-8 グループルビ振りと初出ルビ振りの併用例

未習漢字ルビ振りは、[未習漢字検索]コマンド、[未習漢字ルビ]コマンドを使用して行います。まず[未習漢字検索]コマンドを実行し、未習漢字に黄色のマーキングを設定します。次に[未習漢字ルビ]コマンドを実行し、黄色にマーキング設定された漢字を Word の標準機能である[ルビ]ダイアログを使用して手動でルビを振ります。

なお未習漢字の検索は、文部科学省によって 2020 年に施行された小学校学習指導要領の「学年別漢字配当表」に従って行います。

検索範囲を選択し、[未習漢字検索]コマンドを実行します。選択範囲内の漢字を1文字ずつチェックし、未習漢字に黄色のマーキングを設定します。検索範囲を選択しない場合、Word 文書全体が選択されたと見なします。

約138億年前の宇宙誕生直後に宇宙が急膨張したことを示す「信号」を初めて観測したと、米カリフォルニア工科大などの研究グループが17日、発表した。

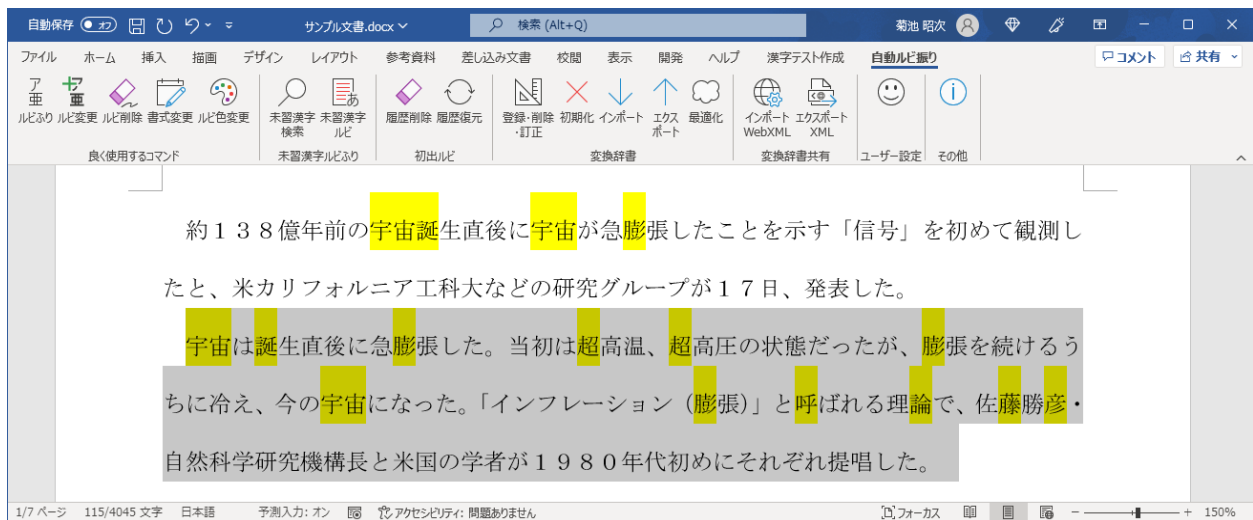
宇宙は誕生直後に急膨張した。当初は超高温、超高压の状態だったが、膨張を続けるうちに冷え、今の宇宙になった。「インフレーション（膨張）」と呼ばれる理論で、佐藤勝彦・自然科学研究機構長と米国の学者が1980年代初めにそれぞれ提唱した。

4.2. 未習漢字ルビ

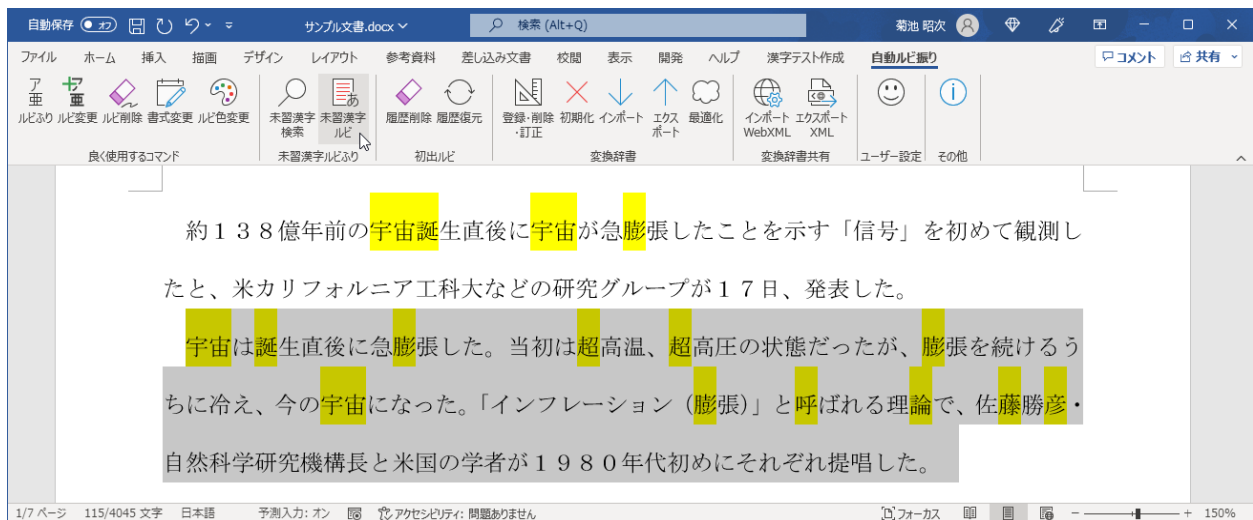
19

(1) ルビ振り範囲を選択します。

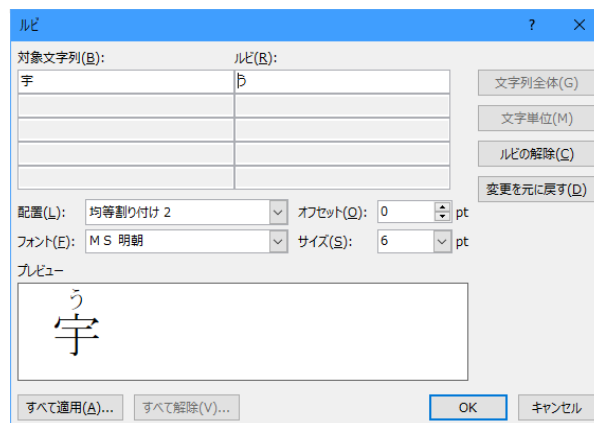
範囲を選択しない場合、文章全体が選択されたと見なします。



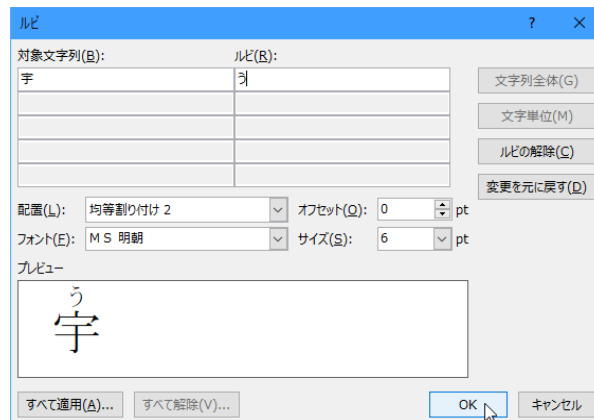
(2) [未習漢字ルビ] コマンドをクリックします。



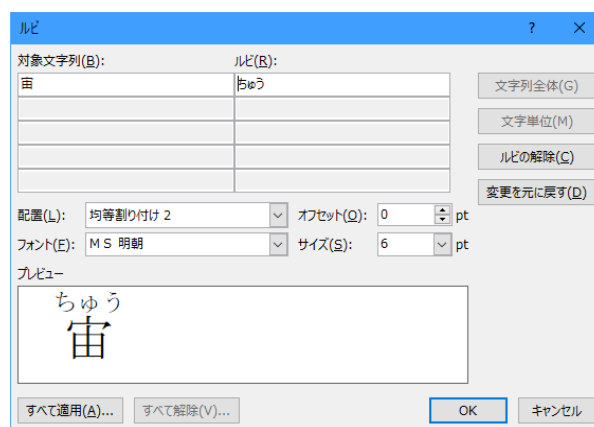
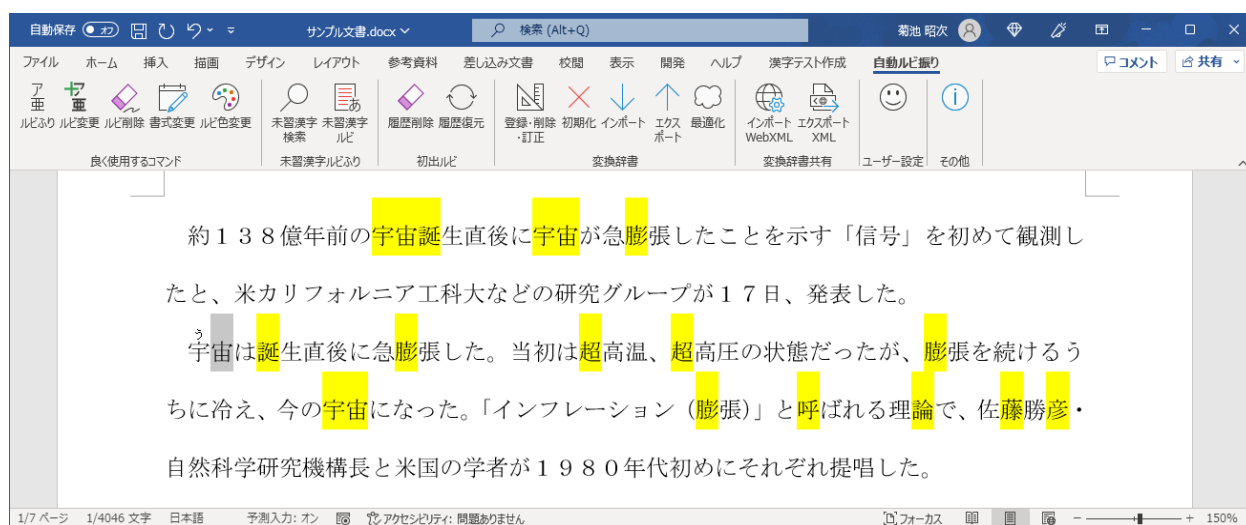
⇒ 黄色でマーキングされた未習漢字が Word 標準機能の「ルビ」ダイアログに表示されます。



(3) ルビを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



⇒ 未習漢字にルビが振られ、次に黄色でマーキングされた未習漢字が「ルビ」ダイアログに表示されます。



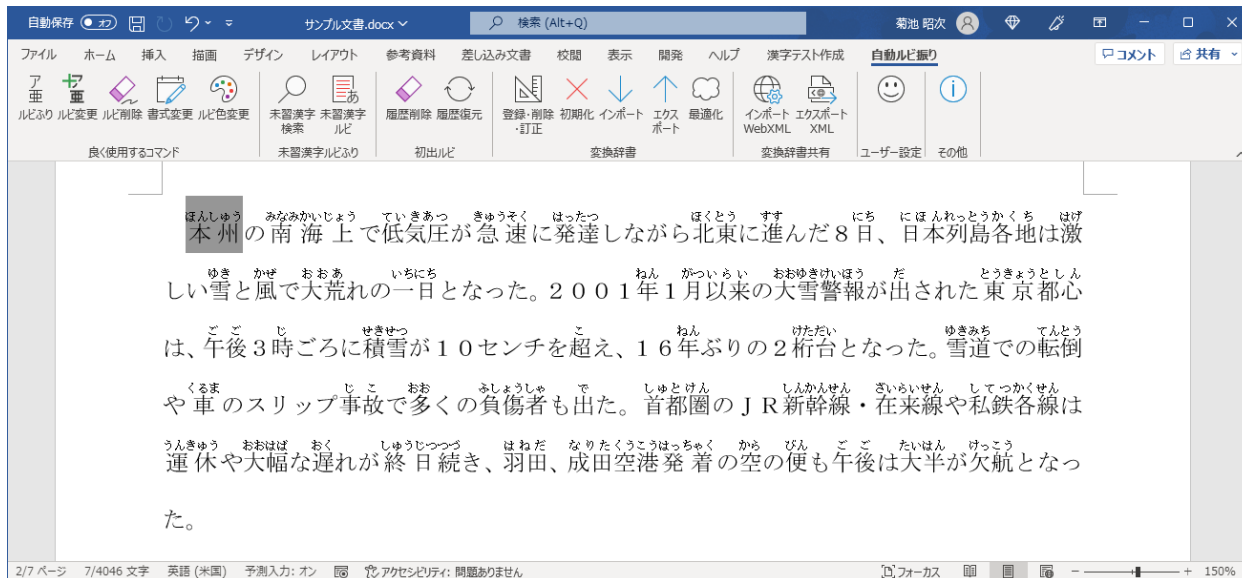
(4) 以下、手順(3)の操作を選択範囲内の黄色でマーキングされたすべての未習漢字について行います。

[キャンセル]ボタンをクリックすると、その時点で処理は中断します。

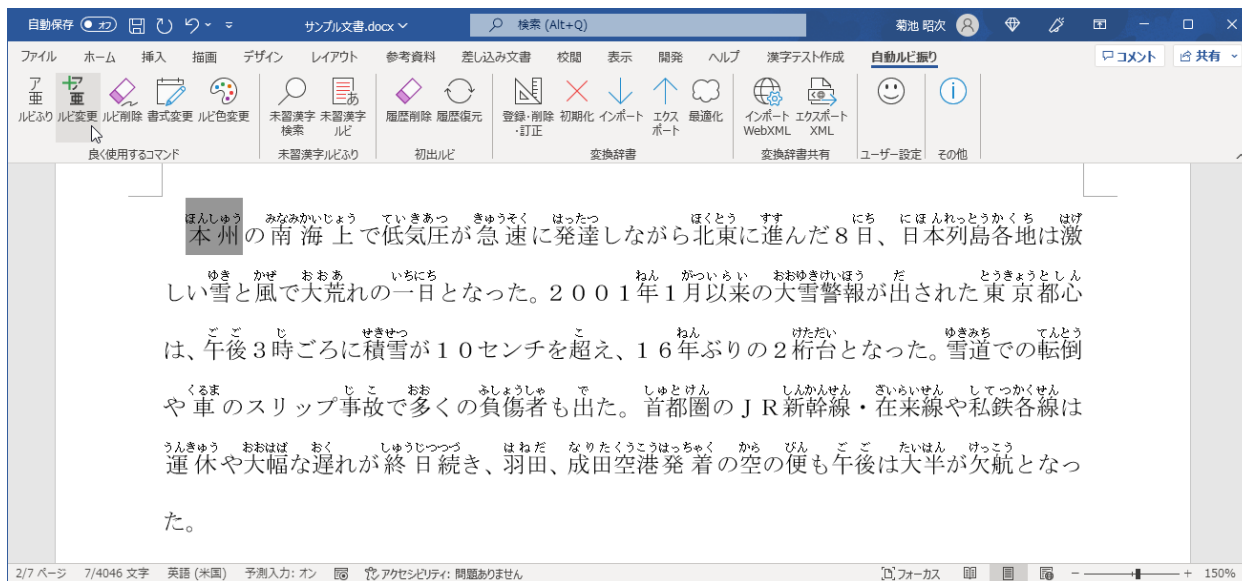
5. ルビ変更

ルビ変更は Word の標準機能で行います。ルビ変更の操作を説明します。

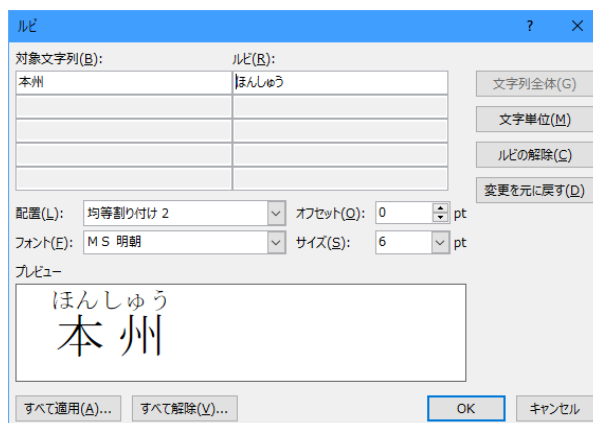
(1) ルビを変更したい範囲を選択します。



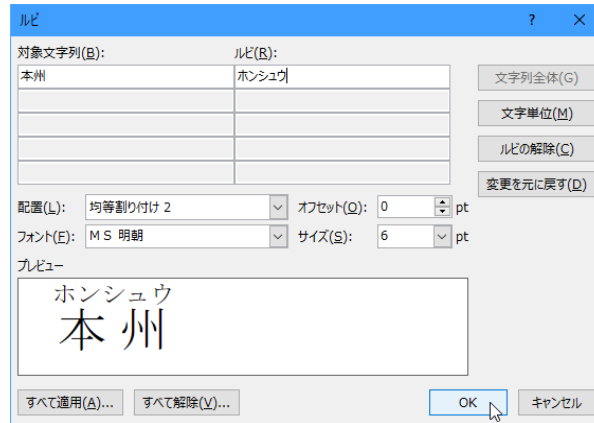
(2) [ルビ変更] コマンドをクリックします。



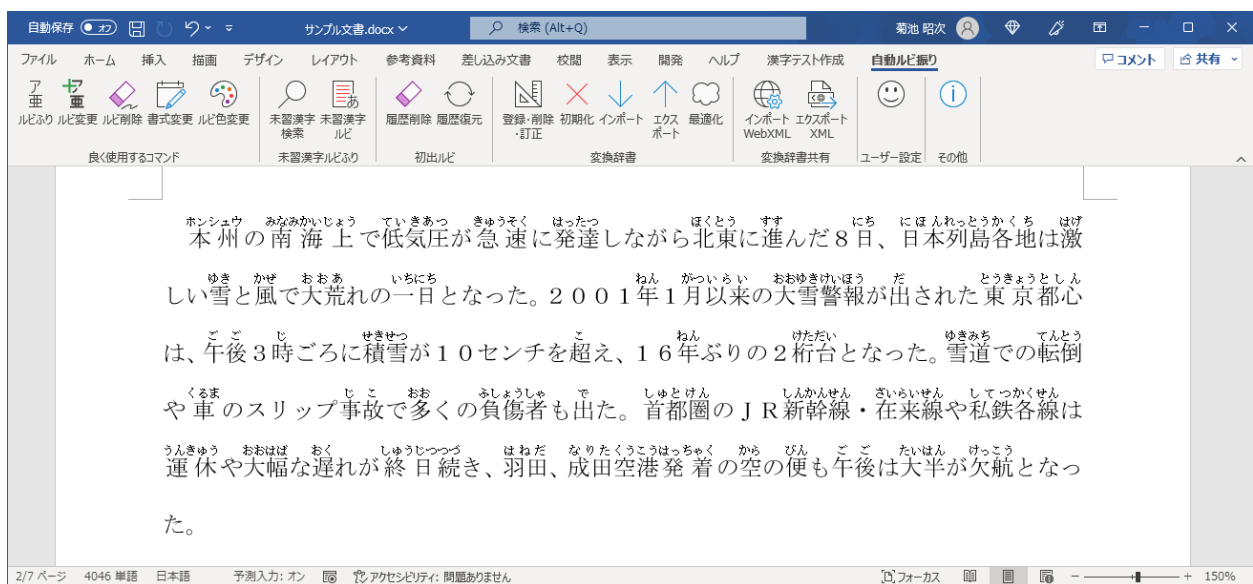
⇒ Word 標準機能の「ルビ」ダイアログが表示されます。



(3) ルビを変更し、[OK]ボタンをクリックします。



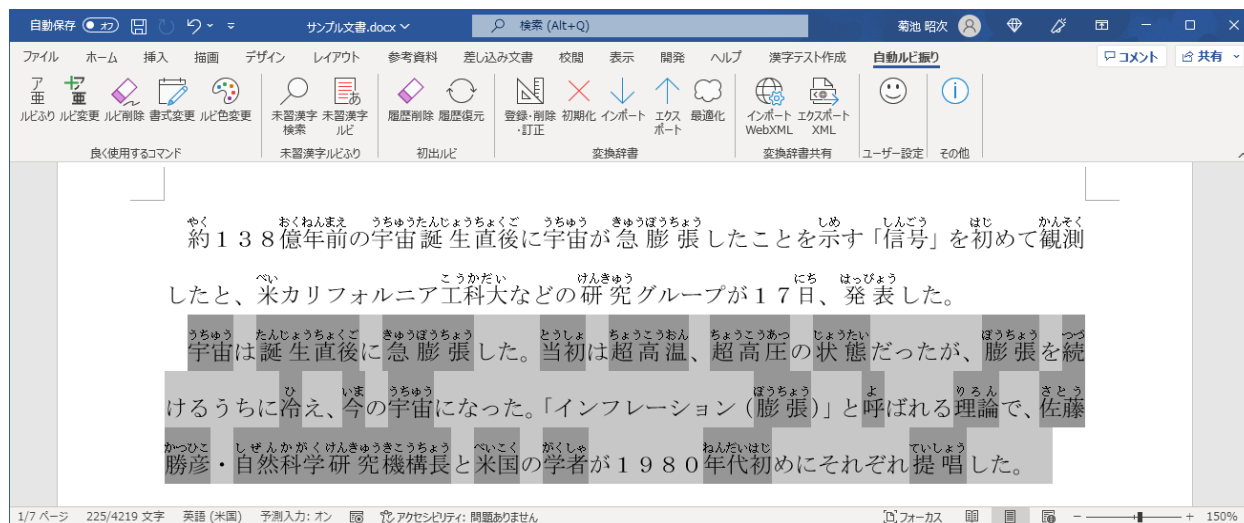
⇒ 単語「本州」のルビが「ほんしゅう」から「ホンシュウ」に変更されます。



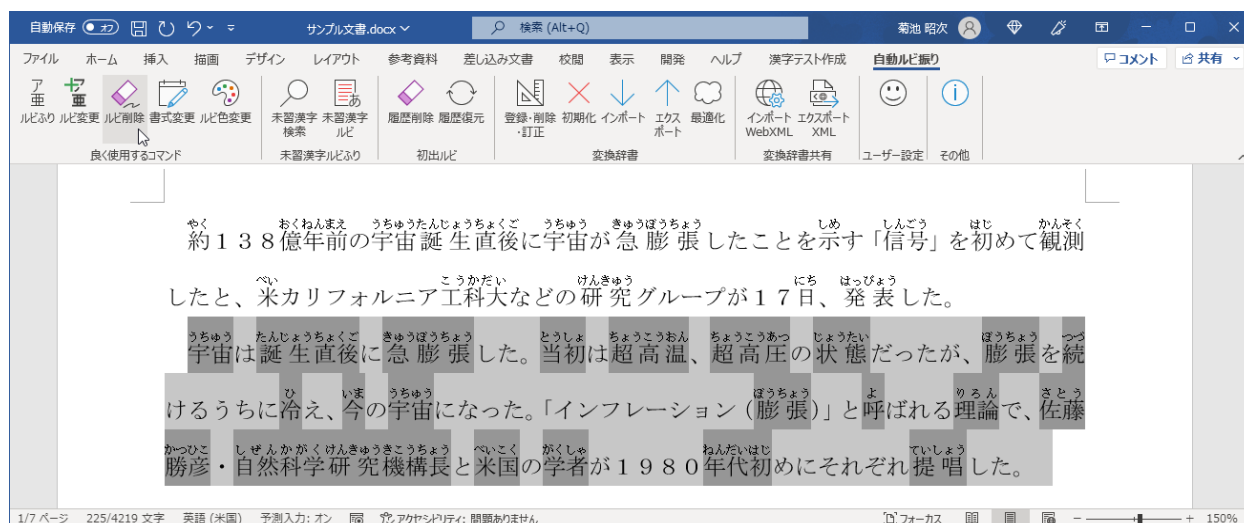
6. ルビ削除

ルビ削除の操作を説明します。

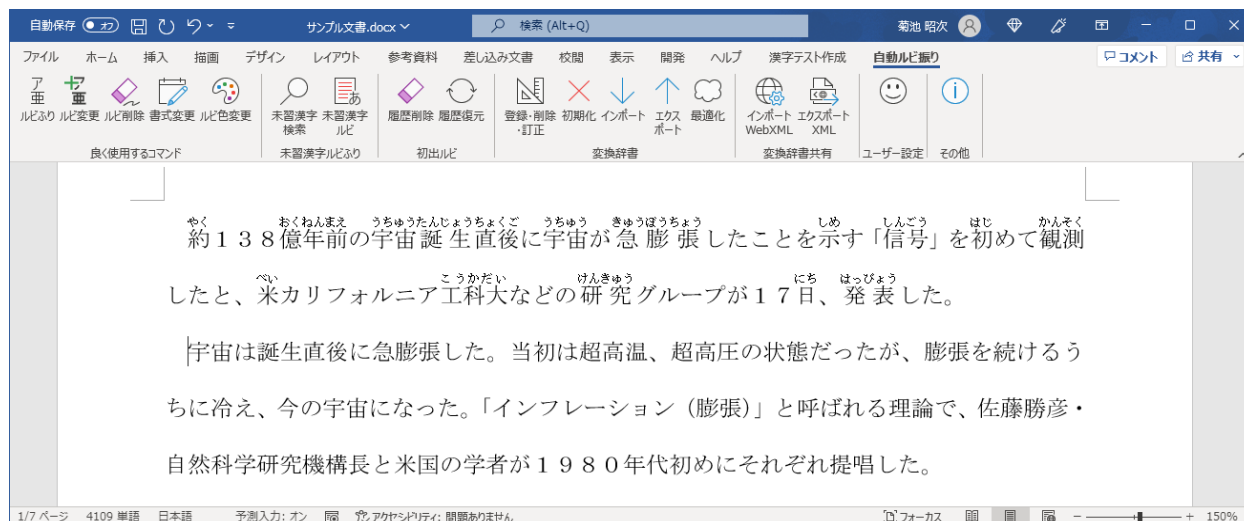
(1) ルビを削除したい範囲を選択します。



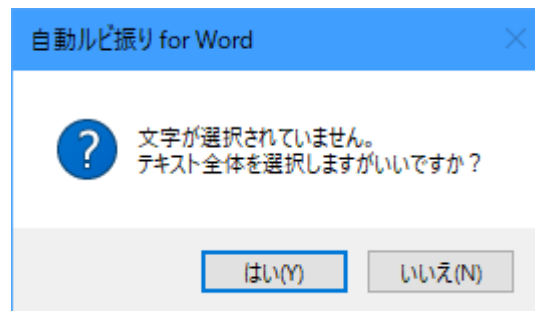
(2) [ルビ削除] コマンドをクリックします。



⇒ 選択範囲内のルビは削除されます。



範囲選択しないで「ルビ削除」コマンドをクリックした場合、開いている Word 文書のすべての文字を選択したとみなします。この場合、確認メッセージが表示されます。

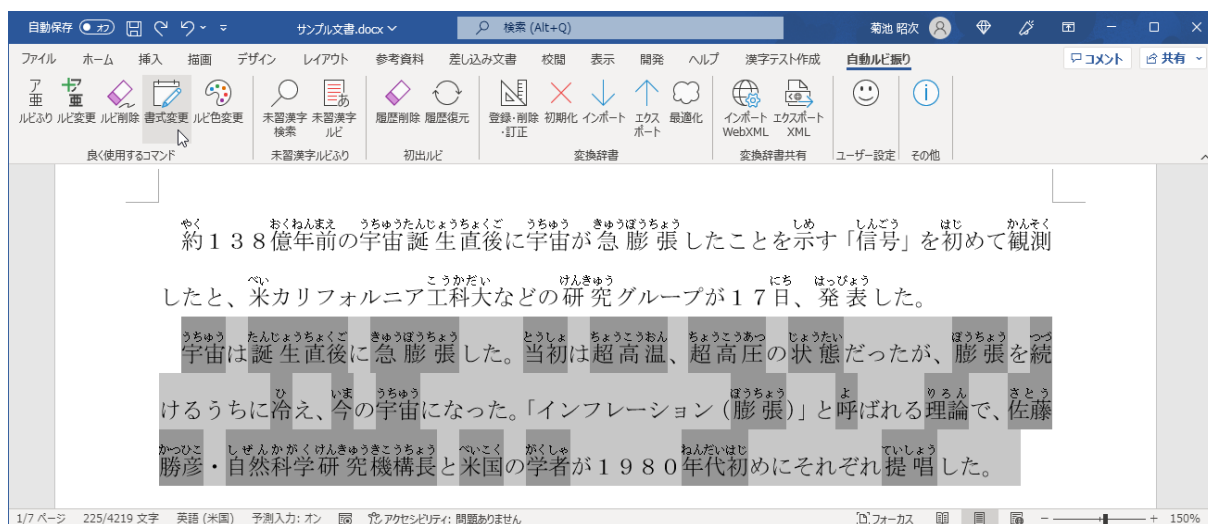


7.書式変更

一旦ルビふりした文章のルビの書式を一括で変更したい場合、[書式変更]コマンドを使用します。Word の[ルビ]ダイアログからも書式変更できますが、ひらがなやカタカナにルビが入ってしまったり、一回で処理できる文字数が少なかったり効率が良くありません。

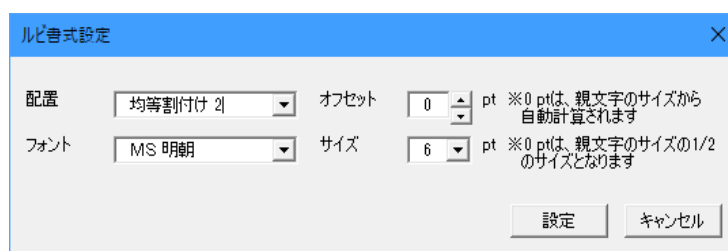
書式変更の操作を説明します。

(1) 書式変更したい範囲を選択し、[書式変更]コマンドをクリックします。



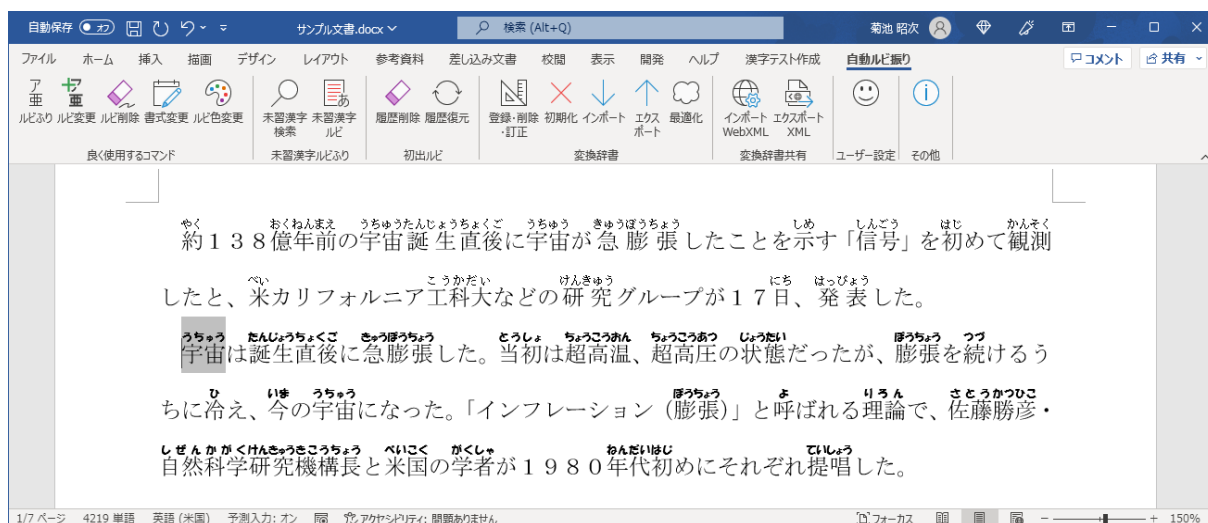
⇒ [ルビ書式設定]ダイアログが表示されます。

選択範囲の最初に出現したルビフィールドのルビ属性が表示されています。



(2) 書式を変更し、[設定]ボタンをクリックします。

⇒ 選択範囲のルビの書式はすべて変更されます。下図はフォントを変更した例です。



8. ルビ振り時の変換辞書登録

ルビ振り時、変換辞書に登録されていない単語を検出したとき、変換辞書への登録を行います。また、変換辞書への登録と同時にモノルビでルビ振りを行うことが可能です（ただしユーザー設定で変換辞書登録が設定されている場合）。バージョン 4.0 以前、モノルビでルビを振るとき、変換辞書に登録されていない単語はグループルビでルビ振りされました。利用者はグループルビで振られた単語を変換辞書登録を行い、再度ルビ振りを行う必要がありました。これらの作業を 1 回のルビ振りで行うことが可能です。

文書内の単語「宇宙」「誕生」「直後」「研修」の 4 つの単語が変換辞書に未登録となっている場合について、サンプル文書（図 8-1）で説明します。旧バージョンでルビ振りしたサンプル文書を図 8-2 に示します。

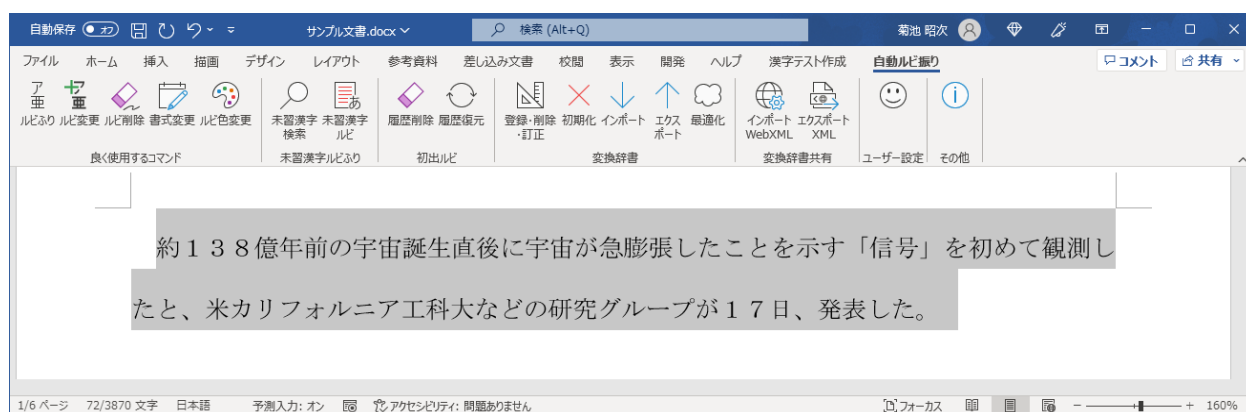


図 8-1 サンプル文書（ルビ振り前）

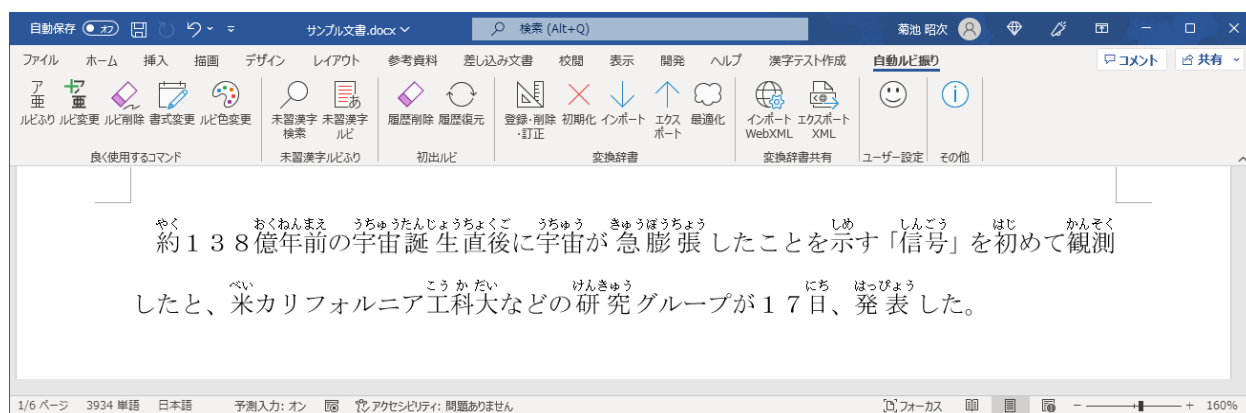


図 8-2 サンプル文書（バージョン 4.0 以前のルビ振り後）

選択範囲内の文字列の一括ルビ振り時に変換辞書変換辞書に登録されていない単語「宇宙」を検出したので、ルビ振り処理は一旦中断し、[変換辞書登録]ダイアログ（図 8-3）を表示します。

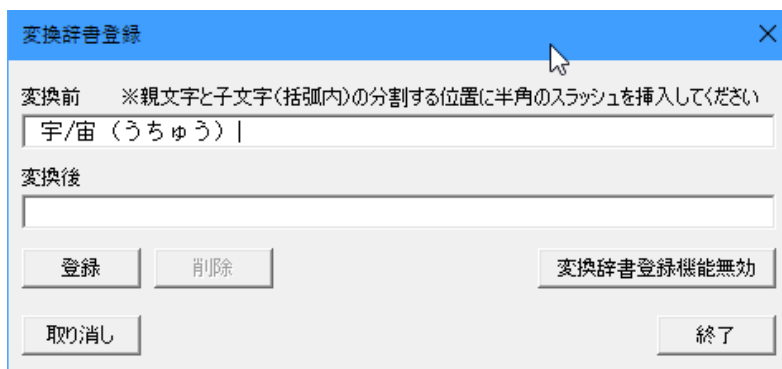


図 8-3 [変換辞書登録]ダイアログ

[変換前]テキストボックス内の親文字「宇/宙」はすでに分割位置のスラッシュが挿入済みなので、子文字「うちゅう」の該当位置にスラッシュを挿入して[登録]ボタンをクリックします。これで単語「宇宙」は変換辞書に登録されました。（図 8-4）

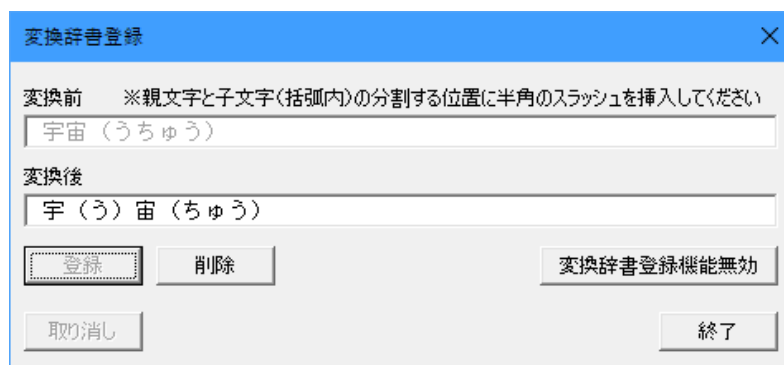


図 8-4 登録後の[変換辞書登録]ダイアログ

変換辞書登録後に変換辞書から削除したいときは[削除]ボタンをクリックします。削除後のダイアログを図 8-5 に示します。

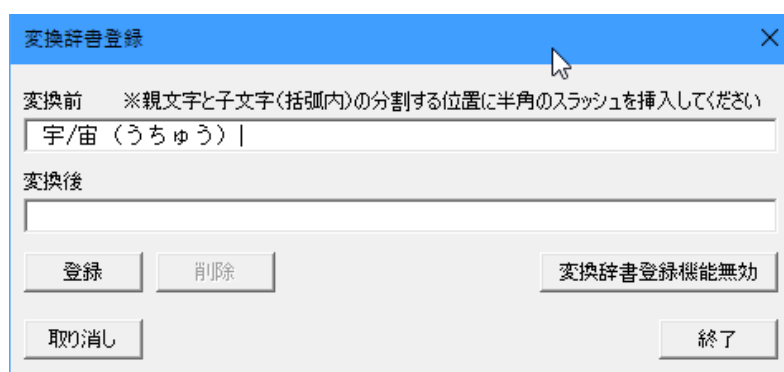


図 8-5 削除後の[変換辞書登録]ダイアログ

残る変換辞書に登録されていない単語についても同様の操作を行ってください。すべての単語を登録後のサンプル文書を図 8-6 に示します。

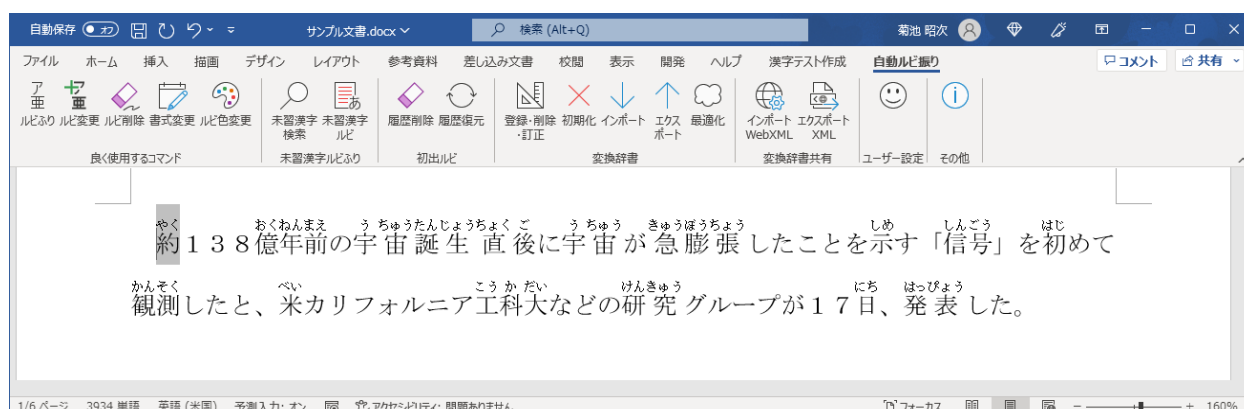


図 8-6 サンプル文書（ルビ振り後）

また、すべての変換辞書未登録単語について、変換辞書登録をキャンセルしたい場合は[変換辞書登録機能無効]ボタンをクリックします。この操作は一時的なもので、次のルビ振り操作では変換辞書登録は復活します。

変換前の子文字の修正と変換辞書登録について（バージョン 5.1 以降の機能）

変換前の子文字に誤りがあるとき、バージョン 5.0 以前の場合、一旦その単語については[終了]ボタンをクリックし変換辞書登録しないでルビ振りを行います。次にその単語に Word の標準ルビ機能で正確な子文字を振り、その後にルビフィールドを選択して変換辞書登録を行うという面倒な操作を行いました。

バージョン 5.1 以降の場合、変換前の誤った子文字を[変換辞書登録]ダイアログ上で修正し、変換辞書登録を行うことで、子文字の修正と変換辞書登録を一回の操作で行うことができます。

例として、Word が単語として判断した「移動時」は変換辞書未登録で、子文字を「いどうとき」として[変換辞書登録]ダイアログに表示された状態（図 8-7）から子文字の修正と変換辞書登録までの手順を図 8-8 から図 8-10 に示します。

図 8-7 単語の子文字に誤りがある状態

図 8-8 変換前の子文字を修正した直後

図 8-9 変換前の子文字にスラッシュを挿入後

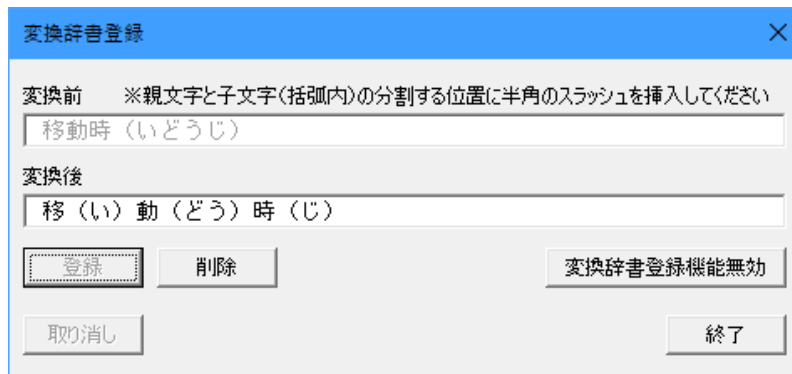


図 8-10 「登録」ボタンクリック後

ただし、選択された文字列内で連続する複数の単語にまたがる子文字の修正については単純に対応できません。例として「夏目漱石」という文字列にルビを振る場合を説明します。文字列「夏目漱石」について、Word は「夏目漱」と「石」の 2 つの単語から構成されると誤った認識をします (Microsoft 365 の場合)。このまま文字列「夏目漱石」に対してグループルビを振ると、2 つのルビフィールド「夏目漱 (なつめすす)」「石 (いし)」が作成されます。正確には「夏目」と「漱石」の 2 つの単語から構成されると認識し、2 つのルビフィールド「夏目 (なつめ)」「漱石 (そうせき)」が作成されなければなりません。このように Word が誤った単語抽出をした場合の変換辞書登録の手順について説明します。

- 手順 1. 「夏目」に対して Word の標準ルビ機能でグループルビ「なつめ」を、「漱石」に対して同様にグループルビ「そうせき」を振ります。
- 手順 2. Word 文書内の 2 つのルビフィールド「夏目 (なつめ)」「漱石 (そうせき)」を選択し、[変換辞書登録・訂正・削除]ダイアログを使用して、それぞれ単語について変換辞書登録を行います。変換辞書登録・訂正・削除の詳細は「9 変換辞書登録・削除・訂正」を参照してください。

バージョン 5.1 以降では、Word の単語抽出に誤りを検出した場合、変換辞書を使用して Word の単語抽出をサポートします。先ほどの「夏目漱石」の例で、「夏目」と「漱石」を変換辞書に登録することで、登録後は正しい単語抽出が可能になります。変換辞書に単語を登録すればするほど、ルビ振り時の誤変換を少なくすることが可能になります。なお、ルビ振りはグループルビ振り、モノルビ振りどちらでも有効です。

変換辞書に登録できない単語のルビ振り時の誤変換対策について

変換辞書に登録可能な単語は、2 文字以上の漢字のみで構成される文字列に限定されます。文字列「大みそか」などひらがなを含む単語は変換辞書に登録できません。ルビ振りで文字列「大みそか」が「大 (だい) みそか」と誤変換する場合、Windows 標準の日本語入力プログラム (以下、IME) で IME ユーザー辞書に単語「大 (おお) みそか」として単語登録してください。単語登録後のルビ振りから正しくルビ振りできます。IME は Windows の機能なので、ご使用のすべてのアプリケーション (メモ帳、EXCEL、メールアプリ、WEB ブラウザ、など) で入力時の誤変換が解消します。

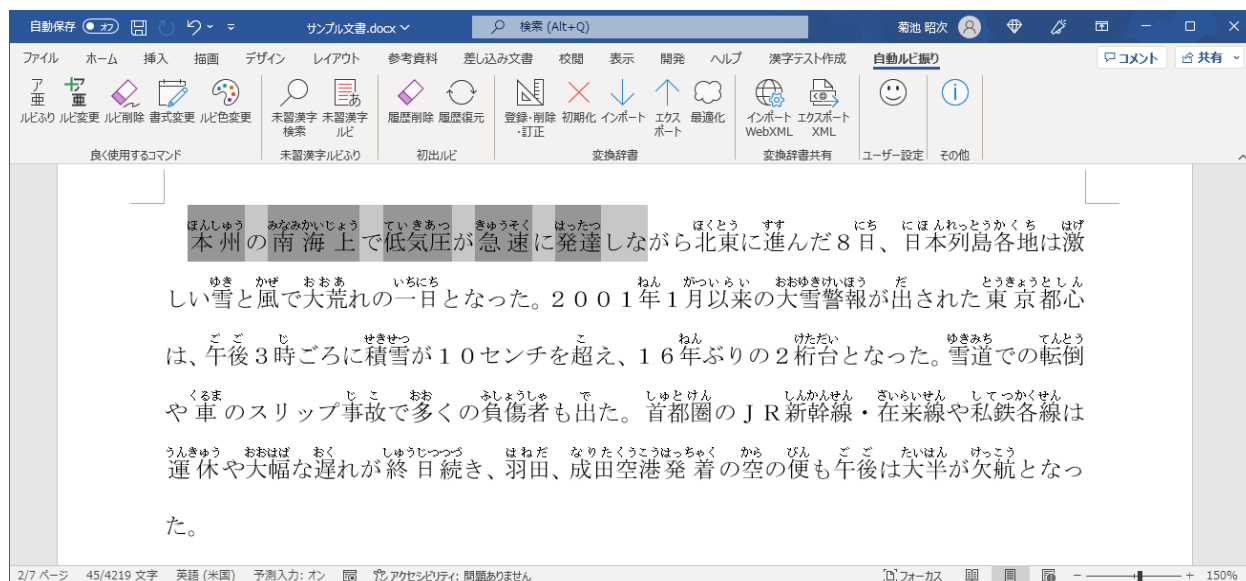
9. 変換辞書登録・削除・訂正

モノルビでルビを振るには、ルビ振り対象となる単語について、グループルビフィールドと変換後のモノルビフィールドを対で変換辞書に登録して置く必要があります。この作業は[変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログで行います。また、変換辞書に登録されている単語の削除、変換辞書に登録されている単語のルビの訂正についてもこのダイアログを使用します。

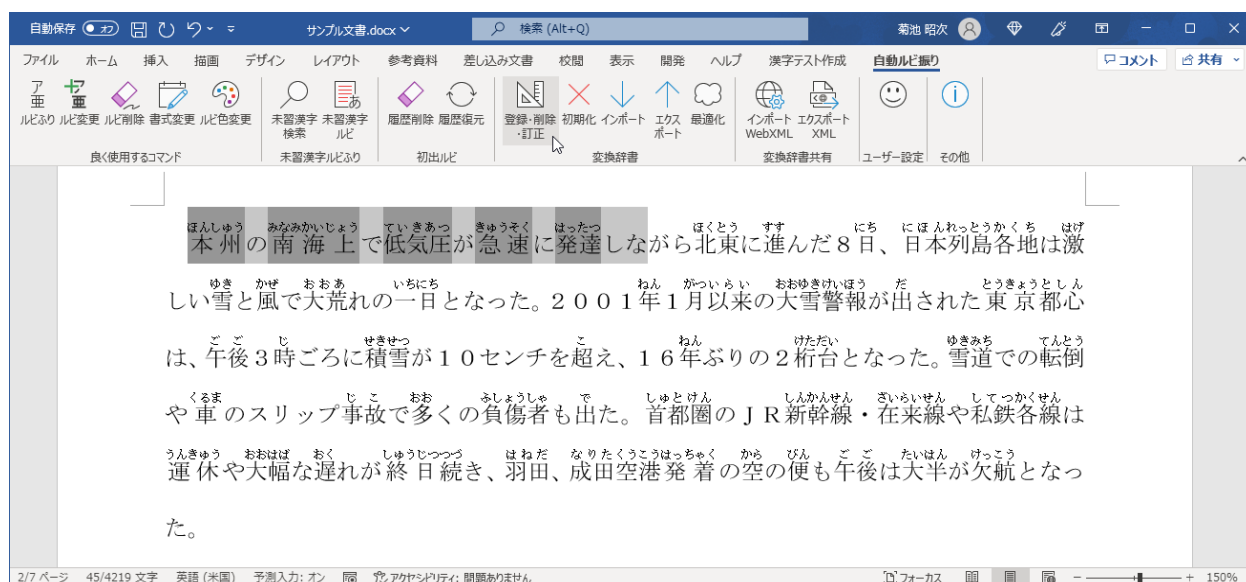
変換辞書への単語登録、変換辞書から単語の削除、変換辞書登録済み単語の訂正について、操作を説明します。

9.1. 変換辞書への単語登録

(1) 変換辞書に登録したいルビフィールドを範囲選択します。



(2) [変換辞書登録・削除・訂正] コマンドをクリックします。



⇒ [変換辞書登録・削除・訂正] ダイアログが表示されます。(図 9-1)

[変換前]テキストボックスには最初のルビフィールド「本州（ほんしゅう）」が表示されています。[>]ボタンをクリックすると次に選択されている「南海上（みなみかいじょう）」が表示され、[>>]ボタンをクリックすると最後に選択されている「発達（はったつ）」が表示されます。

[<]ボタンは1つ前の選択されているルビフィールドの表示、[<<]ボタンは最初に選択されているルビフィールドの表示に使用します。

図 9-1 の例で、[変換後]テキストボックスは何も表示されていません。これは単語「本州」が変換辞書未登録であることを意味します。すでに変換辞書に登録されている場合、「本（ほん）州（しゅう）」と表示されます。

図 9-1 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ

- (3) 変換前のグループルビフィールドの親文字(ルビ振り対象文字)の分割箇所に半角スラッシュ(以下、スラッシュ)を挿入します。子文字についてはスラッシュが挿入されていないので、分割位置にスラッシュを挿入してください。(図 9-2)

このとき、①親文字を変更したり、②全角スラッシュを入れたり、③親文字と子文字でスラッシュの数に違いがあったり、構文に誤りがあると登録時にエラーとなります。登録の操作が行われていなければ、[取り消し]ボタンをクリックして入力前の状態に戻すことができます。

図 9-2 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ (スラッシュ入力後)

- (4) [登録]ボタンをクリックします。

⇒ 変換辞書に登録できたときは、[変換後]テキストボックスにモノルビフィールドが表示されます。(図 9-3)

図 9-3 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ (登録後)

9.2. 変換辞書から単語削除

変換辞書登録作業中、一度は登録したけど削除したいという場面で使用します。
登録操作の手順(4)からの継続で説明します。

(1) [削除]ボタンをクリックします。

⇒ 変換辞書から削除できたとき、[変換後]テキストボックスは何も表示されません。(図 9-4)

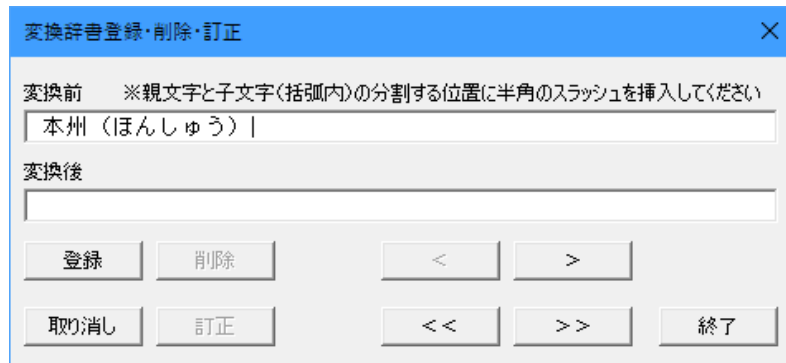


図 9-4 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ (削除後)

9.3. 変換辞書登録済単語の訂正

変換辞書登録作業中、一度は登録したけど子文字を訂正したいという場面で使用します。
登録操作の手順(4)からの継続で説明します。

- (1) [変換後]テキストボックス内のルビを修正します。(図 9-5)

良い例ではありませんが、子文字をカタカナに修正した例です。

ここで、①親文字を修正したり、②カッコを削除したり、③カッコを含め最大登録文字数 32 文字を超える文字列など、構文に誤りがあると訂正時にエラーとなります。訂正の操作が行われていなければ、[取り消し]ボタンをクリックして入力前の状態に戻すことができます。

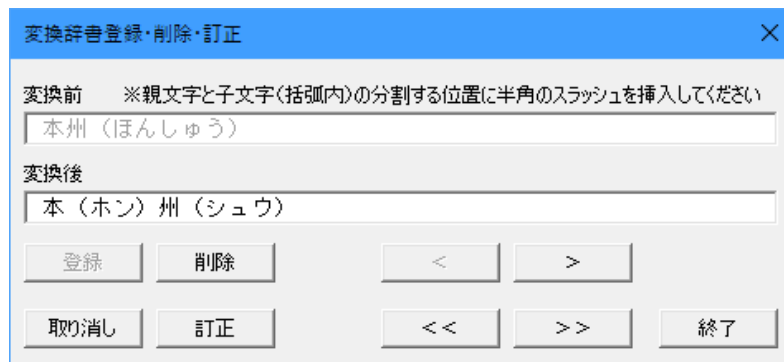
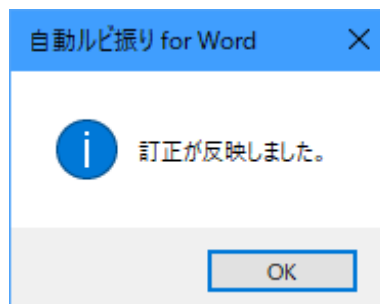


図 9-5 [変換辞書登録・削除・訂正]ダイアログ (訂正中)

- (2) [訂正]ボタンをクリックします。

⇒ 変換辞書に訂正が反映できたとき、完了メッセージが表示されます。



10. 変換辞書の保守

変換辞書は、[ユーザー設定]ダイアログの[変換辞書保存フォルダ]テキストボックスで設定されたフォルダに「MonoRuby.mdb」のファイル名で、変換辞書に関する最初の操作を実行したとき自動的に作成されます。

変換辞書は永続的に使用するものであり、管理に注意が必要です。長期間掛けて整備したデータが、システム障害などで消滅してしまっても取り返しがつきません。変換辞書の定期的なバックアップを行ってください。

変換辞書は重要なファイルと位置付けているため、本アプリケーションをアンインストールしても削除されません。手動での削除をお願いします。

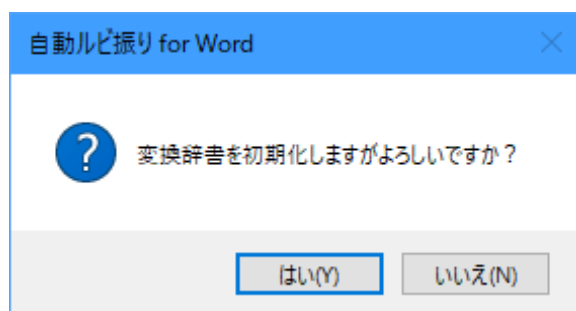
10.1. 初期化

変換辞書を削除して作り直します。データは空の状態になりますので、必要があれば事前にエクスポートしてください。

初期化の操作を説明します。

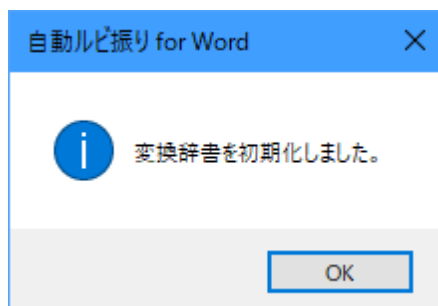
(1) [変換辞書初期化]コマンドをクリックします。

⇒ 確認メッセージが表示されます。



(2) [はい]ボタンをクリックします。

⇒ 初期化が正常終了すると、完了メッセージが表示されます。



10.2. エクスポート

変換辞書のデータをテキストファイル形式（文字コードは UNICODE（UTF-16））で出力します。文字コードはシフト JIS ではないので、テキストエディタで修正した場合の保存には注意してください。

ファイル名は「変換辞書_yyyymmddhhmmss.txt」となります。

ファイル名

エクスポートを実施した日時がファイル名に反映します。

「変換辞書_20140220133033.txt」2014 年 2 月 20 日 13 時 30 分 33 秒に作られた変換辞書

出力形式

全角カンマを挟んで、左側にグループルビフィールド、右側にモノルビフィールドが設定されています。ルビは全角のカッコで挟まれています。（図 10-1）

操作（そうさ）,操（そう）作（さ）
手順（てじゅん）,手（て）順（じゅん）
行間（ぎょうかん）,行（ぎょう）間（かん）
文字間（もじかん）,文（も）字（じ）間（かん）
余白（よはく）,余（よ）白（はく）
用紙（ようし）,用（よう）紙（し）
行数（ぎょうすう）,行（ぎょう）数（すう）
文字数（もじすう）,文（も）字（じ）数（すう）
段組（だんぐ）,段（だん）組（ぐ）
上下（じょうげ）,上（じょう）下（げ）

図 10-1 エクスポートファイルの出力形式

エクスポートの操作を説明します。

(1) [変換辞書エクスポート]コマンドをクリックします。

⇒ [ファイル保存]ダイアログが表示されます。（図 10-2）

フォルダは、[ユーザー設定]ダイアログの[変換辞書保存フォルダ]テキストボックスで設定されたフォルダが初期表示となっています。ファイル名の日時には現在の日時が設定されています。

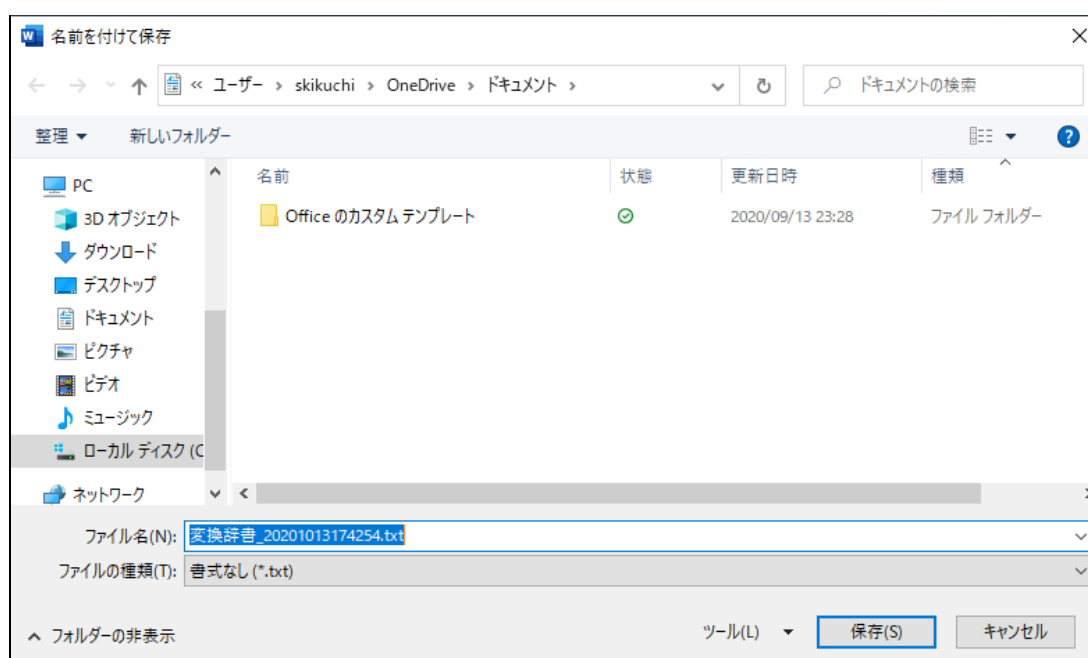


図 10-2 [ファイル保存]ダイアログ

- (2) 保存するフォルダを指定し、必要であればファイル名を変更して[保存]ボタンをクリックします。
⇒ エクスポートが正常終了すると、完了メッセージが表示されます。(図 10-3)

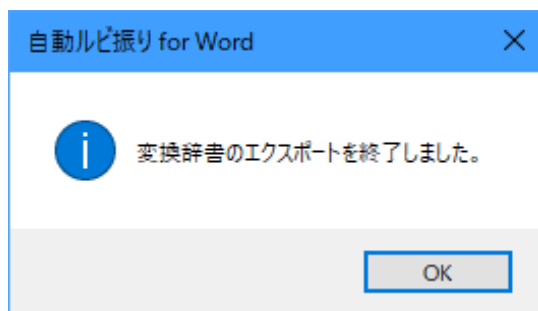


図 10-3 エクスポート完了メッセージ

10.3. インポート

「10.2. エクスポート」で説明したテキストファイル形式のファイルを取り込み、変換辞書に**追加登録**します。同一単語がすでに変換辞書に登録されている場合、その単語の登録はスキップされます。

インポートファイル内のデータに構文上の誤りを検出した場合、変換辞書への登録は一切行われません。この場合、インポートファイルと同一ファイル名（拡張子は「log」）で、エラーログがインポートファイルと同一フォルダ内に出力されます。エラーログに出力されたエラー行数・エラー内容を参考にしてエラー箇所を修正してください。

インポートファイルとエラーログファイルの例

インポートファイル名「変換辞書_20140220133033.txt」

エラーログファイル名「変換辞書_20140220133033.log」

エラーログファイル出力形式

インポートファイルのファイル名、エラー箇所の行数・エラー内容が出力されます。(図 10-4)

```
#####  
# 変換辞書構文エラーログ #  
#####  
  
インポートファイル => C:\Users\skikuchi\Documents\変換辞書_20140223152304.txt  
  
行数 : 18  
内容 : カンマが存在しないか、2つ以上存在します。  
  
行数 : 61  
内容 : ルビ振り対象の文字列は修正できません。  
  
行数 : 1357  
内容 : ルビ振り対象の文字列は修正できません。
```

図 10-4 エラーログの例

インポートの操作を説明します。

(1) [変換辞書インポート]コマンドをクリックします。

⇒ [ファイル選択]ダイアログが表示されます。(図 10-5)

フォルダは、[ユーザー設定]ダイアログの[変換辞書保存フォルダ]テキストボックスで設定されたフォルダが初期表示となっています。

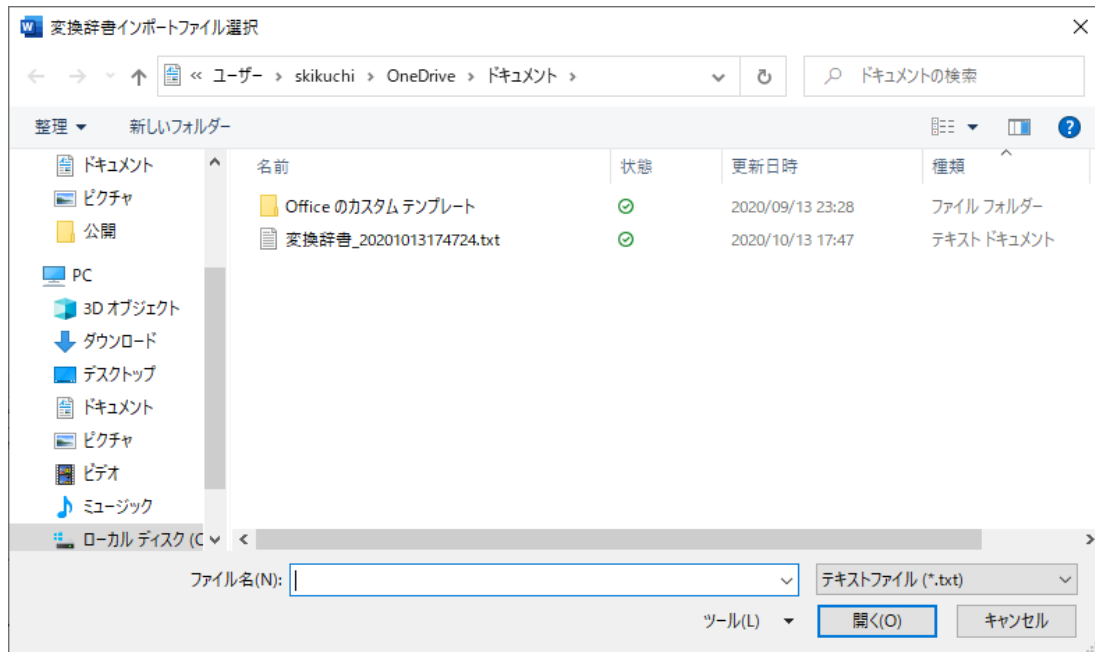


図 10-5 [ファイル選択]ダイアログ

(2) フォルダを指定し、インポートファイル選択して[開く]ボタンをクリックします。

⇒ インポートが正常終了すると、完了メッセージが表示されます。(図 10-6)

インポートファイル取り込み中に構文エラーを検出した場合、エラーメッセージが表示されます。(図 10-7)

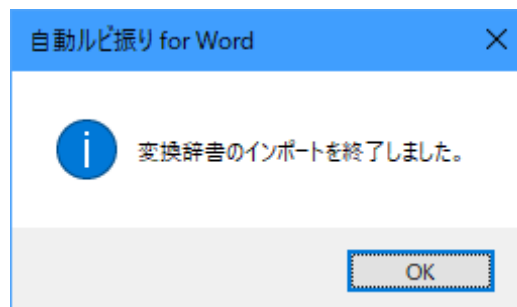


図 10-6 インポート完了メッセージ

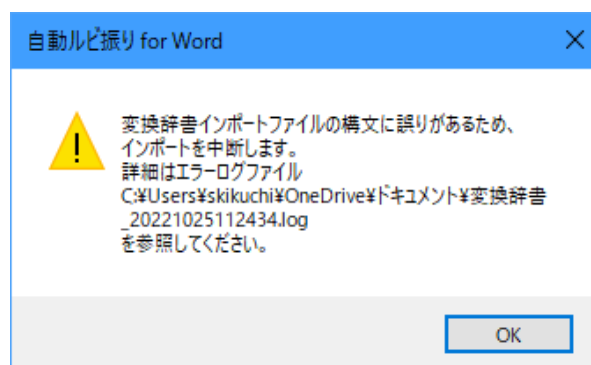


図 10-7 構文エラーメッセージ

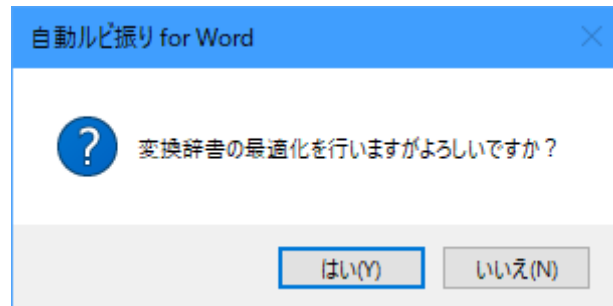
10.4. 最適化

長期間、変換辞書に対して更新作業を行っていると、ファイルが肥大化しパフォーマンスの低下に繋がります。定期的に最適化を行ってください。

最適化の操作を説明します。

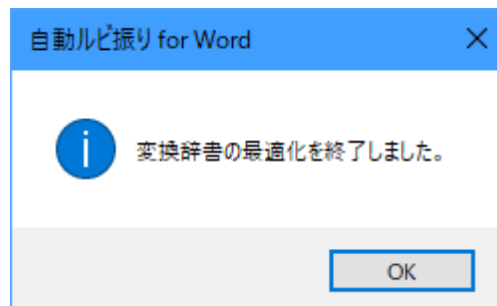
(1) [変換辞書最適化] コマンドをクリックします。

⇒ 確認メッセージが表示されます。



(2) [はい] ボタンをクリックします。


⇒ 最適化が正常終了すると、完了メッセージが表示されます。



11. 共通操作

[ルビふり]、[片仮名ルビふり]、[ルビ削除]、[書式変更]、[未習漢字検索]、[未習漢字ルビ]各コマンドに共通の操作です。ただし、[ルビふり]、[片仮名ルビふり]、[ルビ削除]の各コマンドは、ユーザー設定で初出ルビ振りが無効になっているときに限ります。

11.1. 元に戻す

クイックアクセスツールバーの[元に戻す]コマンド（）をクリックすると、操作前の状態に戻されます。[ルビふり]コマンド操作後の[元に戻す]コマンド操作前後を図 11-1、図 11-2 に示します。

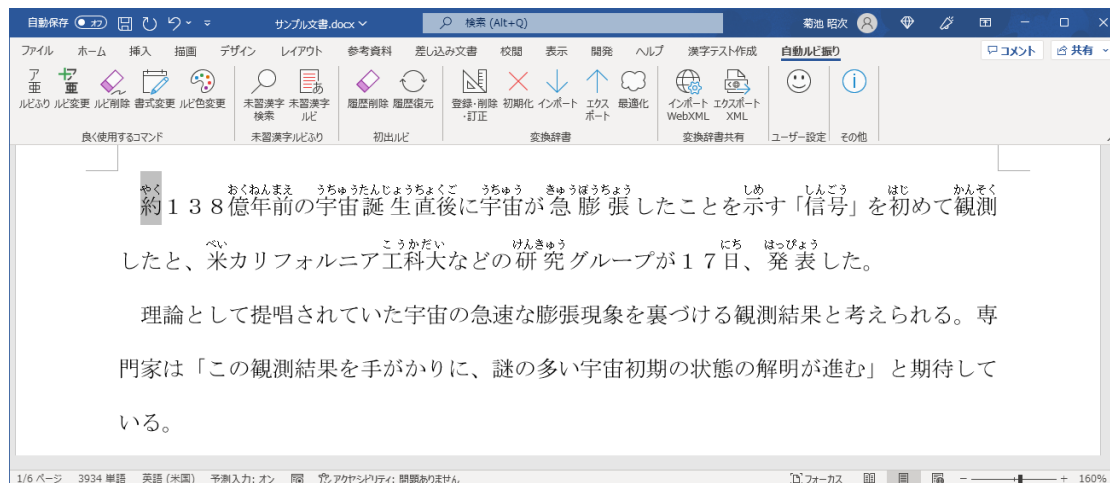


図 11-1 元に戻す操作前

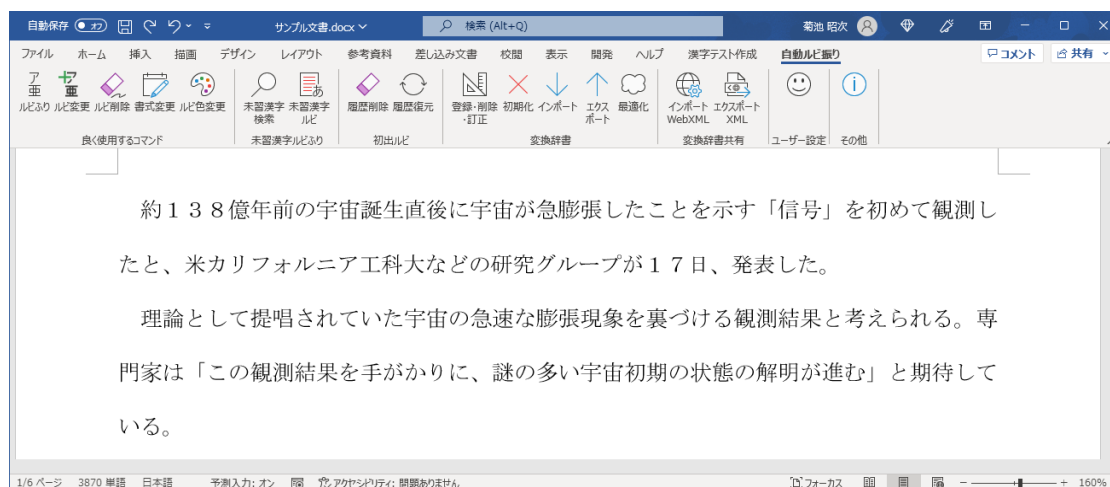



図 11-2 元に戻す操作後

11.2. やり直し

クイックアクセスツールバーの[やり直し]コマンド（）をクリックすると、直前に行った操作はやり直されます。[元に戻す]コマンド操作後（図 11-2）の[やり直し]コマンド操作前後を図 11-3、図 11-4 に示します。

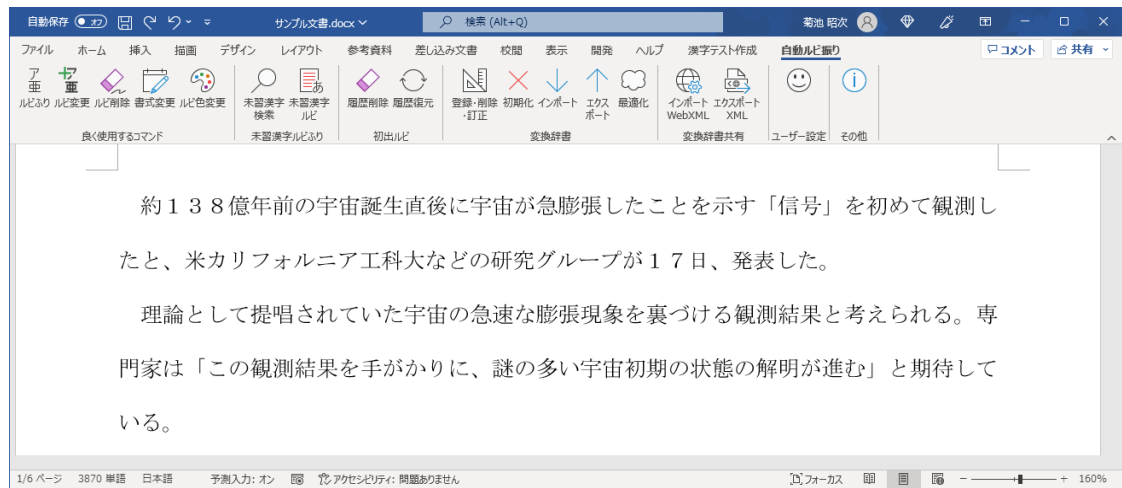


図 11-3 やり直し操作前

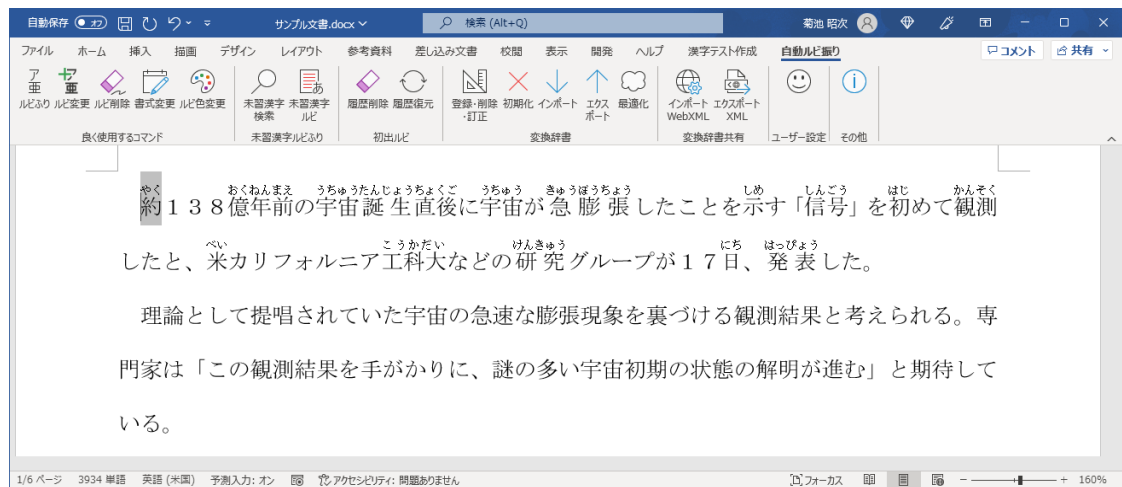


図 11-4 やり直し操作後

12. エラーメッセージ

ルビ振り実行中のエラーについて、エラー内容と対応策をまとめました。

12.1. 文字数エラー

(1) メッセージ

選択文字列の文字数が最大値（2048 文字）を超えています！

文字数を減らして再度実行してください。

(2) 内容

範囲選択してルビ振りした場合

範囲選択した文字数が 2048 文字を超えています。

範囲選択せずにルビ振りした場合

段落内の文字数が 2048 文字を超えています。

(3) 対応策

範囲選択してルビ振りした場合

範囲選択した文字数を 2048 文字以内にしてルビ振りしてください。

範囲選択せずにルビ振りした場合

エラーになった段落は、範囲選択で 2048 字以内にしてルビ振りしてください。

12.2. フィールドエラー

(1) メッセージ

選択範囲内にフィールド（組み文字、ルビ、変更履歴など）が存在します。

フィールドが存在すると実行できません。

(2) 内容

ルビ振り範囲内の文字列内に、フィールド（組み文字、ルビ、囲い文字、縦中横、変更履歴、図表番号）が存在します。

(3) 対応策

選択範囲にフィールドが入らないようにしてルビ振りしてください。

12.3. 表の列選択エラー

(1) メッセージ

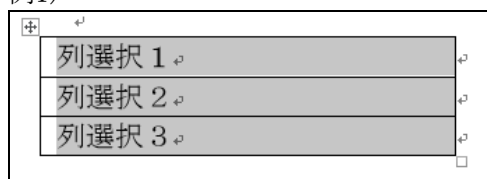
表内の列選択はできません。セル内のテキストを選択するか、行選択で実行してください。

(2) 内容

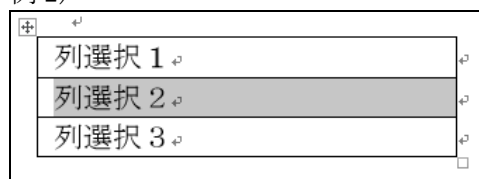
表内の文字列を列選択しています。

列選択の例

例1)



例2)

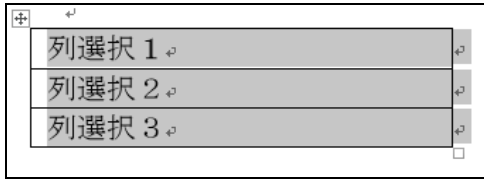


(3) 対応策

セル内の文字列を選択するか、行選択でルビ振りしてください。

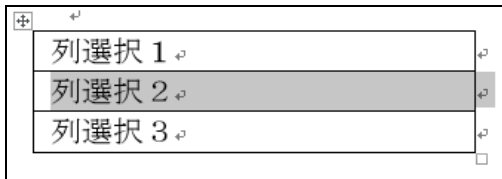
列選択 例 1)の対応策

下図のように行選択してルビ振りしてください。

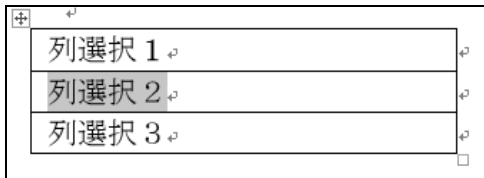


列選択 例 2)の対応策

下図のように行選択してルビ振りしてください。



または、セル内の文字列を選択してルビ振りしてください。



12. 4. 図形選択エラー

(1) メッセージ

選択範囲内に図形が存在する場合、複数の段落を選択することはできません。

(2) 内容

複数の段落が選択され、選択範囲内に図形がレイアウトされています。

(3) 対応策

図形がレイアウトされている段落を選択してルビ振りしてください。

範囲選択せずにルビ振りした場合、段落単位にルビ振りするのでエラーになりません。

12. 5. Word に起因するエラー

(1) メッセージ

Word の障害が考えられます。

エラーとなった段落を細分化して選択してください。

(2) 内容

段落内の選択された文字列に対してルビ振り実行中に、Word が本アプリケーションにあり得ない数値を返却しました。エラーとなった段落は赤色でマーキングされます。

エラーとなった段落のみルビ振りはスキップしますが、次の段落からルビ振りは継続します。

(3) 対応策

エラーになった段落の範囲選択を分割してルビ振りしてください。

または Word 標準のルビ機能でルビ振りしてください。